

(様式第 10)

東女医病発 290 号  
平成 26 年 10 月 2 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 東京女子医科  
理事長 吉岡 俊正

東京女子大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒162-8666 新宿区河田町8番1号
氏 名	学校法人 東京女子医科大学 理事長 吉岡 俊正

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

東京女子医科大学病院
------------

3 所在の場所

〒162-8666 新宿区河田町8番1号	電話( 03 )3353-8111
-------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	④ ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科 2 循環器内科 3 消化器内科 4 血液内科 5 内分泌内科 6 腎臓内科 7 神経内科 8 人工透析内科 9 疼痛緩和内科 10 ペインクリニック内科 11 リウマチ科 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	④	・	無		
外科と組み合わせた診療科名					
1 呼吸器外科 2 心臓血管外科 3 消化器外科 4 小児外科 5 整形外科 6 脳神経外科					
7 形成外科 8 内分泌外科 9 腎臓外科 10	11	12	13	14	
診療実績					

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	⑬放射線診断科	
⑭放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	④	・	無		
歯科と組み合わせた診療科名					
1 小児歯科 2 矯正歯科 3 歯科口腔外科	4	5	6	7	
歯科の診療体制					

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 病理診断科 3 小児科(新生児) 4 腎臓小児科 5 循環器小児科						
6 糖尿病代謝内科 7 糖尿病眼科 8	9	10	11	12		
13	14	15	16	17	18	19
20	21					

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
65床	床	床	床	1,358床	1,423床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	827人	23.6人	850.6人	看護補助者	246人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	17人	2.1人	19.1人	理学療法士	27人	臨床検査技師	215人
薬剤師	86人	0人	86.0人	作業療法士	10人	衛生検査技師	1人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	16人	その他	0人
助産師	39人	0.3人	39.3人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	1303人	1.5人	1304.5人	臨床工学技士	68人	医療社会事業従事者	9人
准看護師	2人	0人	2.0人	栄養士	6人	その他の技術員	56人
歯科衛生士	6人	0人	6.0人	歯科技工士	3人	事務職員	331人
管理栄養士	13人	0人	13.0人	診療放射線技師	86人	その他の職員	63人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	48人	眼科専門医	22人
外科専門医	95人	耳鼻咽喉科専門医	8人
精神科専門医	12人	放射線科専門医	14人
小児科専門医	60人	脳神経外科専門医	18人
皮膚科専門医	5人	整形外科専門医	14人
泌尿器科専門医	18人	麻酔科専門医	35人
産婦人科専門医	17人	救急科専門医	14人
		合 計	380人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	1193.8人	8.2人	1202.0人
1日当たり平均外来患者数	4015.3人	135.7人	4151.0人
1日当たり平均調剤数	外来234剤・入院2,953		
必要医師数			350人
必要歯科医師数			3人
必要薬剤師数			41人
必要(准)看護師数			740人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

### 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	m <sup>2</sup> 1,948.31	SRC/RC	病床数	87床	心電計	㊦・無
			人工呼吸装置	㊦・無	心細動除去装置	㊦・無
			その他の救急蘇生装置	㊦・無	ペースメーカー	㊦・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	71.09 m <sup>2</sup> 台	病床数	6床	
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	49.90 m <sup>2</sup>			
化学検査室	384.84m <sup>2</sup>	RC・S	(主な設備) 自動分析装置 免疫自動分析装置他			
細菌検査室	91.49m <sup>2</sup>	SRC	(主な設備) 細菌自動分析装置 安全キャビネット他			
病理検査室	323.38m <sup>2</sup>	SRC/RC	(主な設備) 自動標本作成機 自動染色機 包埋センター他			
病理解剖室	70.69m <sup>2</sup>	RC	(主な設備) 剖検台 精密臓器軽量装置 灌流台他			
研究室	973.96m <sup>2</sup>	SRC/RC/S・RC	(主な設備) 自動分析装置 超低温フリーザー 電子顕微鏡他			
講義室	1,554.08m <sup>2</sup>	RC・S/SRC	室数	24室	収容定員	960人
図書室	1,157.67m <sup>2</sup>	RC・S/SRC/RC	室数	12室	蔵書数	224,228冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日	
紹介率	51.1%	逆紹介率	38.6%
算出 根拠	A：紹介患者の数	21,584人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	17,637人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,766人	
	D：初診の患者の数	45,641人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
三次元形状解析による体表の形態的診断	0人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	0人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	121人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

**2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数**

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法(原発性乳がん)	1人
慢性心不全に対する和温療法(慢性心不全)	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援下縦隔腫瘍摘出術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 da Vinci surgical systemを用いたロボット支援下縦隔腫瘍摘出術			
医療技術名	術前3D画像を用いた腹腔鏡下肺区域切除術	取扱患者数	37人
当該医療技術の概要 術前にCT画像を3D画像に再構築し、胸腔鏡下肺区域切除術を施行			
医療技術名	EWSによる気管支充填術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 難治性気胸に対するEWSによる気管支充填術			
医療技術名	体外式腹型人工肺(ECMO)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 腹型人工肺を用いた体外循環を行った。ARDS(急性呼吸促迫症候群)の患者に用い改善を認め、人工呼吸器離脱の可能性も出てきている。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	163人	・膿疱性乾癬	9人
・多発性硬化症	219人	・広範脊柱管狭窄症	11人
・重症筋無力症	108人	・原発性胆汁性肝硬変	136人
・全身性エリテマトーデス	347人	・重症急性膵炎	19人
・スモン	3人	・特発性大腿骨頭壊死症	24人
・再生不良性貧血	54人	・混合性結合組織病	34人
・サルコイドーシス	103人	・原発性免疫不全症候群	5人
・筋萎縮性側索硬化症	25人	・特発性間質性肺炎	9人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	207人	・網膜色素変性症	32人
・特発性血小板減少性紫斑病	108人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	62人	・肺動脈性肺高血圧症	32人
・潰瘍性大腸炎	297人	・神経線維腫症	32人
・大動脈炎症候群	43人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ピュルガー病	8人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	20人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	10人
・脊髄小脳変性症	69人	・ライノゾーム病	5人
・クローン病	204人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	3人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	25人	・脊髄性筋萎縮症	20人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	97人	・球脊髄性筋萎縮症	6人
・アミロイドーシス	7人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	53人
・後縦靭帯骨化症	52人	・肥大型心筋症	63人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	2人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	196人	・ミトコンドリア病	22人
・ウェゲナー肉芽腫症	6人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	241人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	8人	・黄色靭帯骨化症	3人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	449人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・糖尿病合併症管理料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・医療保護入院等診療料
・がん患者カウンセリング料	・外来緩和ケア管理料
・移植後患者指導管理料	・糖尿病透析予防指導管理料
・院内トリアージ実施料	・外来放射線照射診療料
・ニコチン依存症管理料	・地域連携診療計画管理料
・がん治療連携計画策定料	・がん治療連携管理料
・肝炎インターフェロン治療計画料	・薬剤管理指導料
・医療機器安全管理料1	・医療機器安全管理料2
・医療機器安全管理料(歯科)	・歯科治療総合医療管理料
・造血器腫瘍遺伝子検査	・HPV核酸検出
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・遺伝カウンセリング加算	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・植込型心電図検査	・時間内歩行試験
・胎児心エコー法	・ヘッドアップティルト試験
・人工臓腑	・皮下連続式グルコース測定
・長期継続頭蓋内脳波検査	・中枢神経磁気刺激による誘発筋電図
・神経学的検査	・補聴器適合検査
・ロービジョン検査判断料	・コンタクトレンズ検査料1
・小児食物アレルギー負荷検査	・内服・点滴誘発試験
・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)	・画像診断管理加算1
・CT撮影及びMRI撮影	・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・冠動脈CT撮影加算	・大腸CT撮影加算
・心臓MRI撮影加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・外来化学療法加算1	・無菌製剤処理料
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・歯科口腔外科リハビリテーション料2	・精神科作業療法
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・透析液水質確保加算2
・一酸化窒素吸入療法	・う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・歯科技工加算	・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・眼科装置置換術(眼内電極置換術を含む。)&及び眼科装置交換術、神経眼科装置置換術及び神経眼科装置交換術	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・網膜再建術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、2
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・経皮的冠動脈形成術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・経皮的中隔心筋焼灼術
・経皮的冠動脈ステント留置術	・磁気ナビゲーション加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)
・両室ベーンシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ベーンシング機能付き植込型除細動器交換術	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・補助人工心臓	・植込型補助人工心臓(拍動流型)
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・同種心移植術
・経皮的大動脈遮断術	・ダメージコントロール手術
・体外衝撃波胆石破碎術	・腹腔鏡下肝切除術
・生体部分肝移植術	・同種死体肝移植術
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・インプラント技師	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
 (注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	症例検討会により異なるが、週1回もしくは月に1回程度開催している。なお、平均で月に12件程度開催している。
剖 検 の 状 況	剖検症例数      45例      /      剖検率      6.60%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
先端融合領域イノベーション創出拠点形成「再生医療本格化のための最先端技術融合拠点」	岡野 光夫	先端生命医科学研究所	655,220,700	補委 (独)科学技術振興機構
再生医療産業化に向けたシステムインテグレーションー臓器ファクトリーの創生ー	岡野 光夫	先端生命医科学研究所	373,040,000	補委 内閣府／(独)日本学術振興会
都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育	林 和彦	化学療法・緩和ケア科	29,680,000	補委 文部科学省
$\gamma$ $\delta$ 型T細胞を標的とした癌免疫療法の開発(臨床試験の実施とデータ解析及び効果予測マーカー探索)	小林 博人	泌尿器科	7,500,000	補委 文部科学省
現地国事情に適した高品位透析治療を達成する透析水清浄化システムの研究開発・実証	峰島 三千男	臨床工学科	13,512,000	補委 (独)新エネルギー・産業技術総合開発機構
遺伝子型検査を用いた薬物療法の個別適正化	齋藤 加代子	遺伝子医療センター	2,200,000	補委 文部科学省
テニュアトラック普及・定着事業機関選抜型	笠貫 宏	医学部	17,400,000	補委 文部科学省
テニュアトラック普及・定着事業個人選抜型	笠貫 宏	医学部	15,000,000	補委 文部科学省
国際基準評価で質保証される実践臨床実習	笠貫 宏	医学部	9,510,000	補委 文部科学省
再生医療臨床応用実用化推進事業	大和 雅之	先端生命医科学研究所	1,104,870,000	補委 厚生労働省
再生医療本格化のための集学的教育研究拠点	大和 雅之	先端生命医科学研究所(医学研究科先端生命医科学系専攻)	139,651,000	補委 文部科学省
難治性疾患の再生医療におけるナノバイオマテリアルと送達技術戦略	大和 雅之	先端生命医科学研究所	7,700,000	補委 (独)日本学術振興会

iPS細胞を用いた角膜再生治療法の開発	大和 雅之	先端生命医科学研究所	1,900,000	補 委	(独) 科学技術振興機構
再生医療本格化のための集学的教育研究拠点	大和 雅之	先端生命医科学研究所(医学研究科先端生命医科学系専攻)	139,651,000	補 委	文部科学省
肝臓等複雑化組織の構築と機能解明	大和 雅之	先端生命医科学研究所	35,490,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
男女共同参画型NICU人材養成プログラム	楠田 聡	母子総合医療センター	29,849,000	補 委	文部科学省
ナノバイオテクノロジーが先導する診断・治療イノベーション	伊関 洋	先端生命医科学研究所	41,241,000	補 委	内閣府/ (独) 日本学術振興会
光線力学療法に関する国際標準化	伊関 洋	先端生命医科学研究所	7,136,751	補 委	経済産業省
集束超音波治療に関する国際標準化	村垣 善浩	先端生命医科学研究所	12,388,506	補 委	経済産業省
リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備(リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)	村垣 善浩	先端生命医科学研究所/研究支援部	44,669,000	補 委	文部科学省
医療機器実用化の為に突破力促成プログラム	村垣 善浩	先端生命医科学研究所	35,860,000	補 委	文部科学省
COI スマートライフケア社会への変革を先導するものづくりオープンイノベーション拠点	村垣 善浩	先端生命医科学研究所	2,000,000	補 委	(独) 科学技術振興機構
言語の脳機能に基づく神経回路の動作原理の解明	村垣 善浩	先端生命医科学研究所	3,550,000	補 委	(独) 科学技術振興機構
自己細胞を用いることなく、自己組織からなる血管を再生させる生体吸収性人工血管in situ tissue engineering vasculature(iTEV)の臨床応用に向けた研究	松村 剛毅	心臓血管外科	9,802,000	補 委	(独) 科学技術振興機構
細胞を要さない再生血管用医材の開発とその適応拡大、および臨床応用	松村 剛毅	心臓血管外科	5,460,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業

個別化血栓止血医療を支援する検査システムの実用化	山崎 健二	心臓血管外科	16,315,000	補 委	(独)科学技術振興機構 【再委託者:ソニー】
再生医療用製品の大量生産に向けたヒトiPS細胞用培養装置開発	松浦 勝久	先端生命医科学研究所	18,837,000	補 委	(独)科学技術振興機構
国際共同症例対照研究における多様な携帯電話端末・通話形式と健康に関する調査・分析・評価	山口 直人	衛生学公衆衛生学(二)	20,246,856	補 委	総務省
線虫欠失変異体の収集・保存・提供	三谷 昌平	第二生理学	89,595,000	補 委	文部科学省
炎症の慢性化機構の解明と制御	中村 佐千枝	薬理学	15,210,000	補 委	(独)科学技術振興機構
疾患iPS細胞を用いた大脳皮質構造形成メカニズムの解明	下島 圭子	統合医科学研究所	13,000,000	補 委	(独)科学技術振興機構
癌細胞の転移を制御する内因性リガンドと病原体センサーの役割	丸 義朗	薬理学	25,350,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
交感神経による血管支配におけるeprhin-A1の機能解析	家口 勝昭	薬理学	5,460,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
ゲノムの低メチル化とレトロポソンの活性化を特徴とする大腸がんの診断・治療開発	川上 和之	化学療法・緩和ケア科	5,460,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
臓器移植を受ける子どもの支援プログラム開発に関する研究—主体的意思決定から自律へ	日沼 千尋	看護学部(小児看護学)	1,040,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
「聴く」ことに焦点をあてた神経難病患者のための看護継続教育プログラムの検証	原 三紀子	看護学部(成人看護学)	1,430,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
小・中学生の命に関する意識の時代変化と精神保健教育に関する研究	田中 美恵子	看護学部(精神看護学)	3,770,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
地域で生活する神経筋疾患患者と家族への多職種協働緩和マネジメントプログラムの構築	伊藤 景一	看護学部(地域看護学)	2,340,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
細胞間RNA干渉伝播のメカニズムの解析	三谷 昌平	第二生理学	3,640,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業



家族性膵臓がんの原因遺伝子の解明	古川 徹	統合医科学研究所	4,810,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
胆道系悪性腫瘍の糖鎖分子マーカーの開発と新しいコンビネーション診断系の確立	山本 雅一	消化器外科学	3,880,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
抗CCP抗体陰性関節リウマチ患者に特異的な新規自己抗体の探索	桃原 茂樹	膠原病リウマチ痛風センター	7,020,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
がん細胞シート工学による革新的3次元がん組織モデルの構築	中山 正道	先端生命医科学研究所	7,540,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
(プロ)レニン受容体分子構造における慢性腎臓病治療標的部位の同定	市原 淳弘	第二内科学	6,890,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
Nrf2の賦活化は過食肥満マウスにおける脂肪性肝炎の発症と肝発癌の誘発を抑制する	有泉 俊一	消化器外科学	7,420,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
開発途上国における住民の治療選択行動に関する実証分析ー疫学経済学からのアプローチ	塚原 高広	国際環境・熱帯医学	3,975,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
プロバイオティクスを用いた小児肥満対策の検討	永田 智	小児科学	1,025,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
末梢血ガンマ・デルタ型T細胞の及ぼす腎癌予後への影響	小林 博人	泌尿器科学	1,040,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
孤発性筋萎縮性側索硬化症の病態機序の解明	佐々木 彰一	神経内科学	910,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
神経損傷後の中枢神経回路の改編を制御する神経活動依存的機構の解析	宮田 麻理子	第一生理学	1,950,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
女性医師の継続就労支援:医学会分科会と大病院の調査研究から成功事例に学ぶ	石塚 尚子	成人医学センター	1,040,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
移植細胞シートと宿主を結ぶ架橋血管の内皮連結に周皮細胞が果たす機能的役割の解明	森川 俊一	解剖学・発生生物学	1,040,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
エキソソーム熱ショック蛋白質のToll様受容体を介する慢性骨髄性白血病発癌制御	塚原 富士子	薬理学	1,040,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業

転移性肺がんにおける酸化LDL受容体とTLR4シグナリングのクロストーク	富田 毅	薬理学	1,040,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
体腔傷害における反応性中皮細胞の機能解析と病態診断および再生治療への応用	本田 一穂	第二病理学	650,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
自己免疫性膵炎の発症機序と、細菌が誘導する自然免疫賦活の関与の検討	春田 郁子	微生物学免疫学	1,040,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
学習行動モデルに基づく医師に必要な能力の獲得原理の解明	菅沼 太陽	医学教育学	1,690,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
勤務医のタイムスタディによる客観的勤務実態解析指標の開発	野原 理子	衛生学公衆衛生学(一)	1,539,897	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
中脳一皮質ドパミンシステムによる前頭前野侵害受容ニューロン活動の修飾	川上 順子	第一生理学	1,040,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
ギャップ結合による洞機能パリティ保証機構の解明	西井 明子(関明子)	循環器内科学	1,170,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
長時間作用性β2刺激薬による気道粘液分泌亢進と気道クリアランス障害の分子病態	玉置 淳	第一内科学	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
Klothoを標的分子とした腎疾患の治療戦略	土谷 健	第四内科学	2,262,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
多発性骨髄腫の接着分子を介した難治化の分子機構の解明	今井 陽一	血液内科学	1,079,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
糖尿病性心筋症の機能・形態画像による病態解明と治療効果に関する研究	百瀬 満	画像診断・核医学科	1,430,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
自己組織で内皮化された人工血管、再生小口径動脈の臨床応用	斎藤 聡	心臓血管外科学	1,430,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
ダイレクトRNAシーケンスとメカノセンサーを用いた糖代謝関連転写因子の機能解析	土谷 まり子	成人医学センター	1,040,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
COPDからの肺がん早期発見の試みと発症メカニズムの解析	関根 康雄	八千代医療センター 呼吸器外科	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業

脳動脈瘤家系のパーソナルゲノムの全塩基配列決定:特にゲノム構造多型の解析	糟谷 英俊	東医療センター 脳神経外科	780,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
次世代高速シーケンサーを用いたエクソーム塩基配列決定による家族性もやもや病の解析	恩田 英明	東医療センター 脳神経外科	1,040,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
ジストニアにおける大脳皮質基底核領域の包括的病態解明と脳深部刺激治療戦略	平 孝臣	脳神経外科学	910,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
血液型不適合移植後に認める血液型抗原キメラについての解析	石田 英樹	泌尿器科学	130,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
多職種によるリエゾン精神医療チーム内および一般科との間の連携・協働のあり方の検討	山内 典子	看護部	546,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
在宅睡眠時ナビゲーション透析システムの開発	峰島 三千男	臨床工学科	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
補助人工心臓装着患者のQOLを改善する心臓リハビリプログラムの作成と予後評価	上野 敦子	循環器内科学	1,560,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
ロボット工学とリハ医学の融合ー超小型計測センサと歩行ロボットのリハ医学への応用	猪飼 哲夫	リハビリテーション科	1,456,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
Toll様受容体を介した肝特異的転移前微小環境の構築	出口 敦子	薬理学	1,560,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
医学会分科会認定修練施設の子育・勤務支援策調査と女性医師が継続就業できる職場選択	上塚 芳郎	医療・病院管理学	2,470,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
早老症(ウェルナー症候群)における炎症老化の解析	後藤 眞	東医療センター 整形外科	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
急性冠症候群発症に関わるPSGL-1陽性CD4T細胞の責任冠動脈における役割	佐藤 加代子	循環器内科学	1,690,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
片側嗅内野傷害後の自然回復に関わる、嗅内野-海馬体再神経支配の形態学的解析	本多 祥子	解剖学	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
胎仔の発達に伴う動脈管と肺動脈に発現する遺伝子の網羅的包括的研究	羽山 恵美子	循環器小児科	1,690,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業

小児期肺動脈性肺高血圧症の発症に関わる新しい伝達経路の解明	杉山 央	循環器小児科	1,820,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
後障害なき生存を目指して～新生児期肺障害モデルにおける肺胞微小循環系の再生の試み	中西 秀彦	母子総合医療センター	910,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
生体臓器ドナー候補者の「自発的意思」を確認するためのガイドラインの作成	西村 勝治	精神医学	1,560,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
心筋血流評価における320列CTとN-13アンモニアPET/CTの比較検討	近藤 千里	画像診断・核医学科	1,950,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
胆道癌幹細胞を標的とした癌ペプチドワクチン療法の開発	有賀 淳	先端生命医科学研究所	1,560,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
機能画像を融合した日本人脳回脳溝図譜の臨床応用開発	田村 学	先端生命医科学研究所	910,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
関節リウマチにおけるSD F-1による関節破壊機序解明	神戸 克明	東医療センター 整形外科	1,170,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
メトトレキサートに対する薬剤反応性遺伝子の同定	猪狩 勝則	膠原病リウマチ痛風センター	1,950,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
新規複合的アプローチによる腎細胞癌に対するγδ型T細胞傷害活性増強効果の検討	入部 雄司	輸血・細胞プロセッシング科	1,392,824	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
呼吸器線維芽細胞におけるコリントランスポーターの同定とその機能解析	野中 学	耳鼻咽喉科学	1,840,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
地域在住女性に対する尿失禁予防・改善にむけた包括的プログラムの構築に関する研究	中田 晴美	看護学部(地域看護学)	1,040,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
立位手術のためのAuto-Switching Chairの開発と有用性の評価	岡本 淳	先端生命医科学研究所	2,470,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
活性化NK細胞療法の臨床応用に関する研究	田中 淳司	血液内科学	1,950,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
細胞シート積層化技術を用いた3次元ヒト腹膜組織評価法の確立と新治療法開発への応用	崎山 亮一	臨床工学科	3,250,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業

細胞膜コレステロールによるEat meシグナル抑制機構の解明	高桑 雄一	生化学	2,470,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
女性医師の就業継続条件の再検討:独自調査と政府統計のマイクロデータによる実証的研究	富澤 康子	心臓血管外科学	2,340,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
臨床推論過程の逆行的学習による臨床前教育の開発と検証	大久保 由美子	医学教育学	2,860,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
薬物代謝遺伝子解析用アレイを用いた、CPT-11副作用予測因子の探索	倉持 英和	八千代医療センター 外科診療部	2,600,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
血管内皮機能を指標とした摂食障害患者の病態解明とその臨床応用に関する研究	宮脇 佳世	東医療センター 内科	1,760,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
新規クロロイオンチャネルTMEM16Aを標的とした気道過分泌の病態解明と治療	近藤 光子	第一内科学	1,950,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
腎除神経による慢性降圧における脳内レニン・アンジオテンシン系関連機序の解明	森本 聡	第二内科学	1,950,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
神経可塑性における細胞接着分子Arcadlinの役割	竹宮 孝子	総研研究部	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
新規機序による先天性溶血性貧血の病態体系への組み入れと新しい診断法の確立	菅野 仁	輸血・細胞プロセッシング科	2,730,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
Foxc2遺伝子変異による第4-6鰓弓動脈異常が肺発生に及ぼす影響	森島 正恵	解剖学・発生生物学	1,690,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
QT延長症候群に対する $\omega$ -3多価不飽和脂肪酸の抗不整脈作用の検討	古谷 道子	循環器小児科	2,340,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
筋収縮調節タンパク質のリン酸化を指標とした酸素感受性動脈管の収縮弛緩のメカニズム	竹内 大二	循環器小児科	1,950,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
母親の心的外傷が児に及ぼす心身の影響—メンタルヘルスと遺伝子環境相互作用—	白川 美也子	女性生涯健康センター	910,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
I-123 IMPを用いた分子イメージング手法による眼窩悪性黒色腫診断法の確立	阿部 光一郎	画像診断・核医学	1,802,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業

悪性神経膠腫の治癒向上を目指した照射法探索のための基礎と臨床の融合型研究	前林 勝也	放射線腫瘍学	2,340,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
調節性細胞輸注による腎移植免疫寛容誘導	小山 一郎	腎臓外科	1,840,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
消化管吻合部狭窄に対する細胞シート治療の基礎的研究	大木 岳志	消化器外科学	1,560,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
二弁性大動脈弁における神経堤細胞の役割とその分子基盤の解析	富田 幸子	循環器小児科	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
三次元位相コントラストシネMRIを用いた血流動態解析による弁置換術後評価法の開発	中野 清治	東医療センター 心臓血管外科	3,900,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
微小循環および血液凝固を指標としたショック病態の解明	小森 万希子	東医療センター 麻酔科	1,690,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
在宅ケアに従事する看護職の「生活」の概念の明確化	服部 真理子	看護学部(地域看護学)	738,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
リウマチ性疾患をもつ中高年女性の睡眠の質と慢性疲労の評価	宮内 清子	看護学部(母性看護学)	1,040,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
10代女性の周産期を中心とした育児支援システムの構築	小川 久貴子	看護学部(母性看護学)	910,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
「独り暮らし」高齢者の在宅死を可能にする終末期看護モデルの構築	水野 敏子	看護学部(老年看護学)	2,700,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
ソフトマテリアルによる高品質iPS細胞の樹立と維持	樋口 清香	統合医科学研究所	2,611,030	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
3つの骨格型に分類した日本人成人の顔面の軟組織厚および下顔面の形態の推定法の確立	宇都野 創	法医学	520,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
GPCR信号伝達経路を標的とする新規腫瘍分子診断法の開発	古川 徹	統合医科学研究所	1,170,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
次世代シーケンサーを用いた多発性嚢胞腎の新しい遺伝子診断法の確立	望月 俊雄	第四内科学	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業

宿主由来ATPを悪用したマalaria原虫の赤血球侵入戦略の解明ー治療を目指してー	越野 一朗	生化学	1,040,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
エピジェネティクス解析に基づいた自己結膜組織幹細胞移植の開発	三村 達哉	東医療センター 眼科	1,170,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
正常血管再生療法は新しい癌治療戦略になり得るか？	江崎 太一	解剖学・発生生物学	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
自閉症発症機構解明を志向した細胞接着因子結合タンパク質群の同定	原 雄二	統合医科学研究所	1,305,749	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
不整脈死の「可視化」: 刺激伝導系の3次元画像解析・病理組織解析と遺伝子解析の融合	呂 彩子	法医学	1,800,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
高解像度三次元脈絡膜鋳型モデル構築による黄斑疾患の病態解明	古泉 英貴	眼科学	1,820,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
平均顔を用いた顔貌変化を指標とする看護アセスメントの有用性評価と神経疾患への応用	伊藤 景一	看護学部(地域看護学)	1,150,653	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
上皮・実質・内皮幹細胞のエピジェネティック分化制御による革新的な三次元的角膜の再生	三村 達哉	東医療センター眼科	7,540,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
難治性疼痛へのガンマナイフ照射による鎮痛効果発現メカニズムの解析	矢ヶ崎 有希	第一生理学	780,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
大脳皮質の神経活動による視床の発達期神経回路形成の制御	鳴島 円	第一生理学	1,170,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
運動療法が心不全での骨格筋委縮とミオスタチンに及ぼす影響に関する研究	鈴木 豪	循環器内科学	1,820,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
ゼブラフィッシュ個体を用いた小胞体ストレス応答解析の環境毒性学への展開	菰池 勇太	衛生学公衆衛生学(一)	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
一次線毛の短縮とそれを介した細胞周期制御に関わる分子機序の解明	斎藤 将樹	生化学	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
グリア細胞を介した浸透圧制御の分子的基盤の解明	中台 枝里子(鹿毛枝里子)	第二生理学	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業

低体温症が引き起こす障害メカニズムの遺伝子発現プロファイリング	金子 朋未	法医学	619,539	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
先天性心疾患における血小板活性化の機序、特に内皮機能と遺伝要因の関与について	清水 美妃子	循環器小児科	1,170,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
RI標識抗HIF-1抗体を用いたラット急性心筋梗塞のイメージングに関する研究	福島 賢慈	画像診断学・核医学	780,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
リンパ管再生機序の解明と再生誘導への応用	清水 一彦	解剖学・発生生物学	1,040,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
乳房再建術における患者のQOL向上と医師の安心を支援する術野重畳ナビスの開発	此枝 央人	形成外科学	780,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
重症SIRSの炎症反応に対するautophagy関連遺伝子の及ぼす影響	木村 友則	八千代医療センター 救急医療科	1,170,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
看護技術がもたらす気持ちよさの解明:温巻法の効果検証から尺度開発へ	加藤 京里	看護学部(基礎看護学)	1,170,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
成人医療へ移行する先天性心疾患患者に対する教育支援ツールの開発とその評価	落合 亮太	看護学部(成人看護学)	1,430,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
蛋白結合尿毒素を高効率に除去する新規血液浄化システムの開発	山本 健一郎	臨床工学科	1,170,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
癌の転移におけるC1Dの役割解明と創薬展開	瀧田 守親	薬理学	1,560,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
連続波光源を用いた量子計量学の検証実験	辻野 賢治	物理学	1,040,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
インテリジェントバイオインターフェイスによる選択的細胞接着制御と細胞分離	長瀬 健一	先端生命医科学研究所	1,820,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
二本鎖RNAの細胞間移動を制御する分子メカニズムの解明	今江 理恵子	第二生理学	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
ミューテーターマラリア原虫のゲノムワイド変異解析:分子疫学的・実験的研究	本間 一	国際環境・熱帯医学	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業



地域中小医療機関間の医療安全知財バンクおよび教育システムの構築のための研究	奥津 康祐	医療・病院管理学	1,040,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
神経損傷後の視床神経回路改編と視床細胞活動の関係性—ウイルスベクターによる解析—	南雲 康行	第一生理学	910,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
慢性酸化ストレスによる中枢ミネラルコルチコイド受容体の非ゲノム作用への影響	森 典子	第二内科学	910,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
糸球体内皮細胞に発現するカベオラのアルブミン透過性に関する研究	森山 能仁	第四内科学	1,690,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
ゲノムコピー数異常が発達障害を来すメカニズムの解明	下島 圭子	統合医科学研究所	1,040,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
前向き調査による糖尿病網膜症関連遺伝子の網膜症、黄斑症の進展に及ぼす効果の検討	中村 新子	第三内科学	1,300,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
助産師の人材確保に向けた要因と助産基礎教育に関する研究	原田 通予	看護学部(母性看護学)	780,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
地域医療福祉職と協働ですすめる病棟看護師への退院支援教育プログラムの実践と効果	坂井 志麻	看護学部(老年看護学)	1,820,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
不安の看護の構造化と「不安の看護教育プログラム」の開発	嵐 弘美	看護学部(精神看護学)	780,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
抗体固定化温度応答性表面を用いた細胞選別マイクロ流体デバイスの開発	小林 純	先端生命医科学研究所	1,950,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
逃避行動を規定する神経回路発生の分子機序の解析	堀 沙耶香	第二生理学	910,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
Protein 4.1Rによるマスト細胞の脱顆粒制御機構の解明	田中 正太郎	生化学	3,120,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
TSLP応答性樹状細胞が表皮の性状変化に及ぼす影響	大森 深雪	微生物学免疫学	1,430,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
勤労者の生活習慣と肥満に関するデータベースの樹立と新たな危険因子の探索	福島 教照	衛生学公衆衛生学(二)	3,640,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業

患者の医薬品備蓄とセルフメディケーションの実態からみた災害・精神医療に関する研究	中島 範宏	医療・病院管理学	650,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
微小循環系の制御による消化管腫瘍の悪性化阻止への試み	北原 秀治	解剖学・発生生物学	1,690,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
消化管腺腫発症に伴うICCの形態的・機能的変化の解析	菊田 幸子	解剖学・発生生物学	1,560,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
次世代シーケンサーによる脳動脈瘤の多発性嚢胞腎遺伝子ターゲットリシークェンシス解析	広田 健吾	東医療センター 脳神経外科	2,600,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
網膜傷害時におけるミューラー細胞の脱分化制御機構の解明	齋藤 文典	解剖学	2,080,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
診療所に勤務する看護職のキャリア支援ニーズ―施設をこえた支援システム構築に向けて―	原 美鈴	看護学部(成人看護学)	1,170,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
精神科病院における自殺予防プログラムの開発とその評価―自殺が起きた場合を含めて―	小山 達也	看護学部(精神看護学)	1,950,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
腎臓発生に関わる新規遺伝子の同定―腎臓再生医療の実現に向けて―	神田 祥一郎	腎臓小児科	2,210,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
中枢性疼痛に関わる求心路再編の可視化とその発達・維持の分子機構解明	竹内 雄一	第一生理学	1,690,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
腎移植患者におけるアドヒアランス不良の早期発見・介入のためのツールの開発	小林 清香	精神医学	1,170,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
ADAMTS9による蛋白質輸送制御機構の解明	茂泉佐和子(吉名佐和子)	第二生理学	1,300,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
転移性肺がんにおけるephrin-A1の機能解析	家口 勝昭	薬理学	2,600,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
NMD-小胞体品質管理クlostok機構の解明	榎 建二郎	第二生理学	1,300,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
法医学解剖に由来する人体試料コントロールに関する法学・医学双方向的研究	辻村 貴子	日本語学	977,365	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業

線虫をモデルとした重金属ストレス感知システムの同定	藤木 恒太	衛生学公衆衛生学 (一)	1,430,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
関節リウマチの機能障害進行と関連する遺伝子の同定	越智 健介	膠原病リウマチ痛風センター	1,430,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
未破裂脳動脈瘤による血管内手術患者の不確かさ評価尺度の開発と信頼性・妥当性の検討	益田 美津美	看護学部(成人看護学)	1,430,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
術後せん妄発症予測スケールの妥当性の検証	原沢 のぞみ	看護学部(老年看護学)	390,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
劣化DNAにおける個人識別SNPsマーカーの探索	町田 光代	法医学	1,430,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
気管へ作用する圧力が測定可能なin vitro気管モデルの開発	永井 美玲	麻酔科学	1,560,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
局所的酸素勾配制御による幹細胞分化メカニズム解明に関する研究	太田 裕貴	先端生命医科学研究所	800,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
非侵襲センシングによる細胞シート結合度評価	田中 信行	先端生命医科学研究所	800,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
心臓予定領域の細胞系譜解析によるバイオペースメーカー創出へのアプローチ	浅井 理恵子	循環器小児科	1,100,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
線維芽細胞の差異におけるES細胞由来心筋シートの機能解析	岩宮 貴紘	先端生命医科学研究所	900,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
総括(大阪大学から)	大和 雅之	先端生命医科学研究所	260,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
プラズマによる細胞/組織の活性化・改質及び再生医療への応用展開	金井 孝夫	実験動物中央施設	1,170,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
マイクロサージェリー支援マニピュレータの開発	伊関 洋	先端生命医科学研究所	260,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
マイクロサージェリー支援マニピュレータの開発	岡本 淳	先端生命医科学研究所	390,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業

ステークホルダー視点に基づく医療オペレーションズ・マネジメントと国際ベンチマーク	秋葉 隆司	血液浄化療法科	260,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
ステークホルダー視点に基づく医療オペレーションズ・マネジメントと国際ベンチマーク	鈴木 聡	臨床工学科	1,040,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
臨地実習適正化のための看護系大学共用試験CBTの実用化と教育カリキュラムへの導入	水野 敏子	看護学部(老年看護学)	80,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
生体内超音波ビーム計測及び制御法を用いた低侵襲超音波診断治療統合システム	村垣 善浩	先端生命医科学研究所	910,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
心臓大血管形成における広域器官形成ネットワークの概念と組織構築モデルの確立	富田 幸子	循環器小児科	1,300,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
大陸に由来するアジアンスマッグ(煙霧)の疫学調査と実験研究による生体影響解明	三村 達哉	東医療センター眼科	1,365,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
前頭葉からのトップダウン・コントロールに関わる脳内ネットワーク機能の解明	丸山 隆志	脳神経外科学	104,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
前頭葉からのトップダウン・コントロールに関わる脳内ネットワーク機能の解明	田村 学	先端生命医科学研究所	130,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
前頭葉からのトップダウン・コントロールに関わる脳内ネットワーク機能の解明	川俣 貴一	脳神経外科	91,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
飲酒運転対策の最適な制度設計をめざして—その学際的研究	木林 和彦	法医学	130,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
チーム医療を促進する臨床判断に焦点をあてた専門看護師教育プログラムの開発	金子 真理子	看護学部(成人看護学)	260,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
パプアニューギニアにおけるマラリア薬剤耐性ダイナミズムの集団遺伝学的解明	塚原 高広	国際環境・熱帯医学	65,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
肝内胆管癌を標的とするハイブリッドペプチドによる新しいバイオ療法の研究開発	山本 雅一	消化器外科学	130,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
医学・医療教育指導者の育成システム構築に関する研究	吉岡 俊正	医学教育学	390,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業

超伝導バルクマグネットによる小型NMR(MRI)の開発	村垣 善浩	先端生命医科学研究所	610,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
大規模医療データの計量分析及び政策評価に関する研究	近藤 暁子	看護学部(成人看護学)	325,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
小型遠心ポンプを用いた可搬型除水システムの開発	山本 健一郎	臨床工学科	65,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
チロシンホスファターゼによる新しい細胞死の制御機構	八木 淳二	微生物学免疫学	130,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
動脈老化と動脈中膜変性疾患(大動脈解離、脳動脈瘤、脳動脈解離)のプロテオーム解析	呂 彩子	法医学	130,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
生体に適用可能な超音波ビジュアルサーボの開発とその集束超音波治療への応用	斎藤 明子	消化器内科学	130,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
女性医師がキャリアを形成するために必要な要素とは何か?	檜垣 祐子	女性生涯健康センター	130,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
アフリカに生息するサルを宿主とするマラリア原虫P. gonderiのゲノム解析	本間 一	国際環境・熱帯医学	390,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
女性医師の就労拡充に向けた労働衛生評価と職場環境整備尺度の開発	野原 理子	衛生学公衆衛生学(一)	39,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
膜性増殖性糸球体腎炎におけるメサンギウム細胞内シグナルの病態生理学的意義の解明	服部 元史	腎臓小児科	195,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
体幹部血管性病変の低侵襲4次元非造影MR血管撮影法の確立	坂井 修二	画像診断・核医学科	26,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
体幹部血管性病変の低侵襲4次元非造影MR血管撮影法の確立	河野 真理	画像診断・核医学科	39,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
代謝関連眼底自発蛍光による加齢黄斑変性の病態解明	飯田 知弘	眼科学	26,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業
代謝関連眼底自発蛍光による加齢黄斑変性の病態解明	丸子 一朗	眼科学	26,000	補 委	文部科学省 科学研究費助成事業

業務引き継ぎカイゼンシステムを用いたOJT教育プログラムのフレームワーク	鈴木 孝司	先端生命医科学研究所	325,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
モデル選択法による統計的推論へのデータ前処理組み込みに関する研究	清水 悟	総合研究所	130,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
妊娠合併症のリスク妊婦へのマタニティヨガの介入による自律神経の鎮静効果の検討	高木 耕一郎	東医療センター産婦人科	65,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
介護保険施設における看護職者の雇用マッチング支援モデルの開発	小山 千加代	看護学部(老年看護学)	260,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
学部におけるリンパ浮腫ケア教育の構築—セラピストの育成を視野に入れて—	近藤 暁子	看護学部(成人看護学)	39,000	補委	文部科学省 科学研究費助成事業
HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究	秋葉 隆	血液浄化療法科	2,000,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
進行・再発膵癌に対する新規エピトープペプチドカクテル療法と標準化学療法の併用効果を検討する多施設共同第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験	有賀 淳	先端生命医科学研究所	1,200,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
視覚系の稀少難治性疾患群に関する症例データベース構築	飯田 知弘	眼科	2,000,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
ライソゾーム病(ファブリ病含む)に関する調査研究	石垣 景子	小児科	1,500,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
大規模災害や犯罪被害者等による精神疾患の実態把握と対応ガイドラインの作成・評価に関する研究	石郷岡 純	精神神経科	500,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
臨床評価指標を踏まえた睡眠障害の治療ガイドライン作成および難治性の睡眠障害の治療法開発に関する研究	石郷岡 純	精神神経科	2,500,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
がん治療のための革新的新技術の開発及び臨床応用に関する総合的な研究	伊関 洋	先端生命医科学研究所	1,800,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
慢性心不全の薬物・非薬物治療を統合した地域包括型治療の確立に関する研究	上塚 芳郎	医療・病院管理学	-	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
慢性心不全の薬物・非薬物治療を統合した地域包括型治療の確立に関する研究	上野 敦子	循環器内科	-	補委	厚生労働省 科学研究費補助金

国際医療交流(外国人患者の受入れ)に関する研究	遠藤 弘量	国際環境・熱帯医学	2,600,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
小児心臓移植医療の社会的基盤に関する研究	岡田 芳和	脳神経外科	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
がん登録からみた診療ガイドラインの普及効果に関する研究-診療動向と治療成績の変化-	岡本 高宏	内分泌外科	100,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
希少難治性てんかんに関する調査研究	小國 弘量	小児科	1,800,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
てんかんの有病率等に関する疫学研究及び診療実態の分析と治療体制の整備に関する研究	小國 弘量	小児科	400,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
新しい新生児代謝スクリーニング時代に適応した先天性代謝異常症の診断基準作成と治療ガイドラインの作成および新たな薬剤開発に向けた調査研究	小國 弘量	小児科	1,500,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
急性期病院における認知症患者の入院・外来実態把握と医療者の負担軽減を目指した支援プログラムの開発に関する研究	金子 眞理子	看護学部	300,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
我が国における関節リウマチ治療の標準化に関する多層的研究	鎌谷 直之	膠原病リウマチ痛風センター	900,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
大規模災害や犯罪被害者等による精神疾患の実態把握と対応ガイドラインの作成・評価に関する研究	加茂 登志子	女性生涯健康センター	2,000,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
自己免疫疾患に関する調査研究	川口 鎮司	膠原病リウマチ痛風センター	1,000,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
混合性結合組織病の病態解明、早期診断と治療法の確立に関する研究	川口 鎮司	膠原病リウマチ痛風センター	1,400,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
強皮症における病因解明と根治的治療法の開発	川口 鎮司	膠原病リウマチ痛風センター	900,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
自己炎症疾患とその類縁疾患に対する新規診療基盤の確立	川口 鎮司	膠原病リウマチ痛風センター	1,500,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金

難治性潰瘍を伴う強皮症、混合性結合組織病、全身性エリテマトーデスに対する低出力体外衝撃波治療法	川口 鎮司	膠原病リウマチ痛風センター	3,700,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
遺伝性貧血の病態解明と診断法の確立に関する研究	菅野 仁	輸血・細胞プロセッシング科	2,000,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
稀少小児遺伝性血液疾患の迅速な原因究明及び診断・治療法の開発に関する研究	菅野 仁	輸血・細胞プロセッシング科	-	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
造血細胞移植における肝中心静脈閉塞症(VOD)に対する本邦未承認薬 defibrotide の国内導入のための研究:第I相および第II相試験(医師主導治験)	木村 利美	薬剤部	500,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
難治性神経芽腫に対するIL2、CSF併用ch14.18免疫療法の国内臨床開発	木村 利美	薬剤部	550,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
周産期医療の質と安全の向上のための研究	楠田 聡	母子総合医療センター	25,000,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
HTLV-I 母子感染予防に関する研究:HTLV-I 抗体陽性妊婦からの出生児コホート研究	楠田 聡	母子総合医療センター	1,000,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
RSウイルス気道感染予防によるアトピー型気管支喘息の発症抑制効果に関する研究	楠田 聡	母子総合医療センター	-	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
予防接種に関するワクチンの有効性・安全性等についての分析疫学研究	小島原 典子	衛生学公衆衛生学(2)	700,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
免疫疾患におけるT細胞サブセットの機能異常とその修復法の開発	小竹 茂	膠原病リウマチ痛風センター	1,000,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
神経変性疾患に関する調査研究	斎藤 加代子	遺伝子医療センター	2,100,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
希少性難治性疾患ー神経・筋難病疾患の進行抑制治療効果を得るための新たな医療機器、生体電位等で随意コントロールされた下肢装着型補助ロボット(HAL-HN01)に関する医師主導治験の実施研究	斎藤 加代子	遺伝子医療センター	4,000,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金



希少性難治性疾患患者に関する医療の向上及び患者支援のあり方に関する研究	斎藤 加代子	遺伝子医療センター	2,800,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
小児期発症脊髄性筋萎縮症にたいするバルプロ酸ナトリウム多施設医師主導治験準備研究	斎藤 加代子	遺伝子医療センター	95,800,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
患者および患者支援団体等による研究支援体制の構築に関わる研究	斎藤 加代子	遺伝子医療センター	300,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
疾病中心から患者中心の希少難治性疾患研究を可能とする患者支援団体と専門家集団とのネットワーク構築	斎藤 加代子	遺伝子医療センター	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
遺伝子学的検査の実施拠点の在り方に関する研究	斎藤 加代子	遺伝子医療センター	500,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
日本人2型糖尿病患者における生活習慣介入の長期予後効果並びに死亡率とその危険因子に関する前向き研究(IDCS)	佐藤 麻子	臨床検査科	500,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
慢性心不全の薬物・非薬物治療を統合した地域包括型治療の確立に関する研究	志賀 剛	循環器内科	6,500,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
免疫性神経疾患に関する調査研究	清水 優子	神経内科	900,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
視神経脊髄炎の再発に対するリツキシマブの有用性を検証する第Ⅱ/Ⅲ相多施設共同プラセボ対照無作為化試験	清水 優子	神経内科	500,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
難治性膝疾患に関する調査研究	白鳥 敬子	消化器内科	450,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
我が国における関節リウマチ治療の標準化に関する多層的研究	瀬戸 洋平	膠原病リウマチ痛風センター	900,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
自己免疫疾患に関する調査研究	高村 悦子	眼科	1,500,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
HLA不適合血縁者間移植の安全性および有効性向上のための包括的研究	田中 淳司	血液内科	500,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
移植細胞源を異にする非血縁造血細胞移植の組織適合性に基づく成績向上と移植選択アルゴリズムの確立に関する研究	田中 淳司	血液内科	900,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金

非血縁者間同種末梢血幹細胞移植開始におけるドナーおよびレシピエントの安全性と移植成績向上に関する研究	田中 淳司	血液内科	300,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
ATLの診療実態・指針の分析による診療体制の整備	田中 淳司	血液内科	1,000,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
呼吸不全に関する調査研究	玉置 淳	呼吸器内科	720,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
小児心臓移植医療の社会的基盤に関する研究	中西 敏雄	循環器小児科	8,060,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
成人先天性疾患の診療体系の確立に関する研究	中西 敏雄	循環器小児科	300,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
乳児特発性僧帽弁腱索断裂の病態解明と診断治療法の確立に向けた総合的研究	中西 敏雄	循環器小児科	300,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
慢性心不全の薬物・非薬物治療を統合した地域包括型治療の確立に関する研究	西中 知博	心臓血管外科	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
慢性心不全の薬物・非薬物治療を統合した地域包括型治療の確立に関する研究	西村 勝治	神経精神科	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
わが国のHIV感染者における慢性腎臓病の有病率と予後に関する研究	新田 幸作	腎臓内科	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
遺伝性不整脈疾患の遺伝子基盤に基づいた病態解明と診断・治療法の開発に関する研究	萩原 誠久	循環器内科	1,500,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
C型肝炎を含む代謝関連肝がんの病態解明及び治療法の開発等に関する研究	橋本 悦子	消化器内科	3,000,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
先天性中枢性低換気症候群(CCHS)の診断・治療・管理法の確立	長谷川 久弥	東医療センター新生児科	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
重症の慢性疾患児の在宅と病棟での療養・療育環境の充実にに関する研究	長谷川 久弥	東医療センター新生児科	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
臓器移植・造血細胞移植後日和見感染症に対する有効かつ安全な多ウイルス特異的T細胞療法の開発と導入に関する研究	服部 元史	小児腎臓科	800,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金

間脳下垂体機能障害に関する調査研究	肥塚 直美	高血圧・内分泌内科	1,500,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
小児心臓移植医療の社会的基盤に関する研究	日沼 千尋	看護学部	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
染色体微細構造異常による発達障害の実態把握と疾患特異的iPS細胞による病態解析・治療法開発	平澤 恭子	小児科	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
全ゲノムエクソン配列解析法による先天性内分泌疾患の分子基盤の解明	古川 徹	統合医科学研究所	8,000,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
染色体微細構造異常による発達障害の実態把握と疾患特異的iPS細胞による病態解析・治療法開発	松尾 真理	遺伝子医療センター	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
地域における産科医、小児科医の実態把握に関する研究	松田 義雄	母子総合医療センター	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
周産期医療の質と安全の向上のための研究	松田 義雄	母子総合医療センター	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
「健やか親子21」の最終評価・課題分析及び次期国民健康運動の推進に関する研究	松田 義雄	母子総合医療センター	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
エピジェネティクス解析に基づいた網膜硝子体疾患に対する病態解明と発症予防および治療法の開発	三村 達哉	東医療センター眼科	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
悪性神経膠腫に対するTemozolomideの治療効果を増強した標準治療確立に関する研究	村垣 善浩	先端生命医科学研究所	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
循環器系DRYラボセンターを駆使した治療リスクの低減システム構築と人材育成	村垣 善浩	先端生命医科学研究所	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
ゲノム網羅的関連解析の大規模メタ解析を基盤としたcommon diseaseテーラーメイド医療実現化に関する研究	桃原 茂樹	膠原病リウマチ痛風センター	33,345,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
多関節障害重症RA患者に対する総合的関節機能再建治療法の検討と治療ガイドライン確立	桃原 茂樹	膠原病リウマチ痛風センター	500,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
在宅がん患者・家族を支える医療・福祉の連携向上のためのシステム構築に関する研究	山口 直人	衛生学公衆衛生学(2)	600,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金

国民に役立つ情報提供のためのがん情報データベースや医療機関データベースの質の向上に関する研究	山口 直人	衛生学公衆衛生学 (2)	2,750,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
心臓移植対象患者管理における在宅療法に関する研究に関する研究	山崎 健二	心臓血管外科	500,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
循環器系DRYラボセンターを駆使した治療リスクの低減システム構築と人材育成	山崎 健二	心臓血管外科	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
小児心臓移植医療の社会的基盤に関する研究	山崎 健二	心臓血管外科	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
再生医療実用化加速に資するヒト幹細胞由来製品及び関連要素の品質および安全性確保に関する総合的研究	大和 雅之	先端生命医科学研究所	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
ヒト幹細胞を用いた再生医療の臨床実用化のための基盤構築に関する研究	大和 雅之	先端生命医科学研究所	1,500,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
ヒト幹細胞アーカイブを活用する同種細胞を用いた新規再生医療技術の開発	大和 雅之	先端生命医科学研究所	19,500,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
我が国における関節リウマチ治療の標準化に関する多層的研究	山中 寿	膠原病リウマチ痛風センター	2,500,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
関節リウマチの関節破壊機序の解明と関節破壊「ゼロ」を目指す治療法確立に関する研究	山中 寿	膠原病リウマチ痛風センター	2,000,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
ゲノム網羅的関連解析の大規模メタ解析を基礎としたcommon diseaseデータベース医療実現化に関する研究	山中 寿	膠原病リウマチ痛風センター	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
染色体微細構造異常による発達障害の実態把握と疾患特異的iPS細胞による病態解析・治療法開発	山本 俊至	統合医科学研究所	11,700,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
診断未定多発奇形・発達遅滞の実態把握と病因・病態の解明に関する研究	山本 俊至	統合医科学研究所	500,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
先天性大脳白質形成不全症の診断と治療を目指した研究	山本 俊至	統合医科学研究所	300,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
慢性心不全の薬物・非薬物治療を統合した地域包括型治療の確立に関する研究	弓野 大	循環器内科	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金

進行・再発膵癌に対する新規エピトープペプチドカクテル療法と標準化学療法の併用効果を検討する多施設共同第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験	吉松 和彦	東医療センター 外科	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究	余田 敬子	東医療センター 耳鼻咽喉科	-	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
術中MRIを用いた新規外科治療法の開発	伊関 洋	先端生命医科学研究所	1,000,000	補 委	がん研究 開発費
放射線治療を含む標準治療確立のための研究	三橋 紀夫	放射線科	200,000	補 委	がん研究 開発費
希少悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同試験	村垣 善浩	先端生命医科学研究所	500,000	補 委	がん研究 開発費
先進的手術支援デバイスおよび周辺機器のシステムインテグレーション	鈴木 孝司	先端生命医科学研究所	300,000	補 委	がん研究 開発費
基礎と臨床の橋渡しのための研究	木村 利美	薬剤部	-	補 委	がん研究 開発費
食道表在がんに対する広範囲内視鏡的粘膜下層剥離術後食道潰瘍への自家口腔粘膜上皮細胞シート移植による食道狭窄予防の有効性評価試験	金井 信雄	先端生命医科学研究所	-	補 委	がん研究 開発費
筋ジストロフィーの治験拠点整備、包括的診療ガイドラインの研究	石垣 景子	小児科	1,000,000	補 委	精神・神経 疾患研究 開発費
筋ジストロフィーおよび関連疾患の診断・治療開発を目指した基盤研究	斎藤 加代子	遺伝子医療センター	1,000,000	補 委	精神・神経 疾患研究 開発費
筋ジストロフィーおよび関連疾患の診断・治療開発を目指した基盤研究	原 雄二	統合医科学研究所	1,000,000	補 委	精神・神経 疾患研究 開発費
MODY患者由来のiPS細胞を用いた糖尿病の発症機序ならびに病態の解明	岩崎 直子	糖尿病センター	1,000,000	補 委	国際医療 研究開発 費
周術期3D経食道心エコーの有用性および専門医育成の検討	野村 実	麻酔科	1,000,000	補 委	循環器病 研究開発 費

血栓症の高リスク疾患群の最適診断法の確立を目指した病院・研究所共同研究	内山 真一郎	神経内科	500,000	補 委	循環器病 研究開発 費
次世代シーケンサーを用いた疾患病態解析の基盤構築とその活用による循環器疾患の病態解明	鎌谷 直之	膠原病リウマチ痛風センター	1,500,000	補 委	循環器病 研究開発 費
小児・周産期循環器疾患における集学的診療の構築と新規医療機器開発に向けた統合的研究	中西 敏雄	循環器小児科	600,000	補 委	循環器病 研究開発 費
治験の実施に関する研究 [肺動脈ステント]	杉山 央	循環器小児科	500,000	補 委	治験推進 研究事業
骨格筋における形質膜修復機構の分子基盤	原 雄二	統合医科学研究所	1,000,000	補 委	公益財団 法人ノバル ティス科学 振興財団
「エリスロポエチン発現制御機構と細胞間接着システムの関与の解析～腎性貧血に対するエリスロポエチンの細胞移植による補充治療の可能性の検討～」	関谷 佐智子	先端生命医科学研究所	1,500,000	補 委	公益財団 法人 日本 腎臓財団
家族性若年糖尿病の発症抑制を目指した膵島細胞シートによる新規治療の開発	市原(旧姓:河村) 由美江	糖尿病センター	800,030	補 委	公益財団 法人日本 膵臓病研 究財団
液状処理細胞標本(LBC)を用いた喫煙関連の子宮発癌サーベイランス法の開発	平井 康夫	産婦人科学教室	2,000,000	補 委	公益財団 法人 喫煙 科学研究 財団
高齢者施設における皮膚真菌症治療の適正化および効率化を目指した治療プロトコールの立案	常深 祐一郎	皮膚科学	800,000	補 委	公益財団 法人 長寿 科学振興 財団
小児難病、川崎病に合併する心臓病を予防し、安心・安全な子育て支援に資する研究	永田 智	小児科学	15,000,000	補 委	公益財団 法人セコム 科学技術 振興財団
EGF受容体シグナル伝達-細胞内膜輸送のクロストークを制御する遺伝子ネットワーク	田邊 賢司	総合研究所	2,000,000	補 委	公益財団 法人武田 科学振興 財団
グルココルチコイドによる時計遺伝子の中核での調節と血圧変動	森 典子	高血圧・内分泌科	1,000,000	補 委	花王株式 会社 花王 健康科学 研究会
生体を模倣した神経組織モデル構築およびその機能評価に関する研究	高橋 宏信	先端生命医科学研究所	1,000,000	補 委	公益財団 法人鈴木 謙三記念 医科学応 用研究財

血糖コントロールの自己評価、合併症の実態と新規会員に対する前向き調査－日本糖尿病協会会員群と非会員群の比較－	三浦 順之助	糖尿病センター	500,000	補 委	公益社団法人日本糖尿病協会
関節リウマチ患者において、血清ビタミンD値は転倒と関連するのか？IORRAコホートをを用いた検討	越智 健介	膠原病リウマチ痛風センター	800,000	補 委	公益財団法人骨粗鬆症財団
多発性骨髄腫の新規治療標的カルシニューリンを標的とした治療法の開発	今井 陽一	血液内科	1,500,000	補 委	日本骨髄腫患者の会
網羅的SNP解析を用いた常位胎盤早期剥離の病因解析に関する基礎的検討	松井 英雄	産婦人科学教室	1,000,000	補 委	公益財団法人おぎやー献金基金
高齢者施設入所者の足白癬および爪白癬の頻度の疫学調査、簡易診断法の確立ならびに治療指針の策定	常深 祐一郎	皮膚科学	850,000	補 委	公益財団法人 聖ルカ・ライフサイエンス研究所
末梢神経切断による中枢神経回路再配線の解剖学的解析	竹内 雄一	第一生理学	500,000	補 委	日本私立学校振興・共済事業団
関節リウマチ患者4,793例におけるビタミンD不足・欠乏と新規骨折の関連大規模前向き観察研究IORRAコホートをを用いた2年間の縦断研究	古谷 武文	膠原病リウマチ痛風センター	800,000	補 委	一般社団法人日本骨粗鬆症学会
神経ペプチドによる固体レベルでの環境汚染物質防御誘導	藤木 恒太	衛生学公衆衛生学(一)	2,000,000	補 委	公益財団法人武田科学振興財団
Calcineurin を標的とした多発性骨髄腫の新規治療法の開発	今井 陽一	血液内科	500,000	補 委	公益信託日本白血病研究基金
転移性肺がんにおけるEph/ephrinの機能解析と治療	家口 勝昭	薬理学教室	2,000,000	補 委	公益財団法人 上原記念生命科学財団
若年発症1型糖尿病における皮膚AGE値と内在性分泌型AGE受容体量と糖尿病性血管合併症に関する前向き研究	保科 早里	糖尿病・代謝内科	1,000,000	補 委	公益財団法人日本糖尿病財団
				補 委	

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 2 論文発表等の実績

#### (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2	別紙①参照			
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

#### (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2	別紙②参照			
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを入力すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。



	発表者	発表者の所属	論題	雑誌名
1	Akizawa, Yoshika.	遺伝子医療	Enhanced expression of myogenic differentiation factors and skeletal muscle	Brain Dev. 35(4):349-55, 2013 Apr.
2	Ikari, Naoki	化学療法・緩和ケア科	HER2-positive gastric cancer with paraaortic nodal metastasis successfully resected after	Anticancer Res. 34(2):867-72, 2014 Feb
3	Ono, Y	画像診断・核医学科	Usefulness of 4D-CTA in the detection of cerebral dural sinus occlusion or stenosis with	Neuroradiol. j. 26(4):428-38, 2013 Aug.
4	Ono, Yuko.	画像診断・核医学科	Optimal visualization of multiple brain metastases for gamma knife radiosurgery.	Acta Neurochir Suppl. 116:159-66, 2013.
5	Shimamoto, Syuji	救命救急センター	Case of multiple organ failure due to benzene ingestion.	Chudoku Kenkyu. 26(3):234-9, 2013 Sep.
6	Hamahata, Atsumori.	形成外科	Multiple pilomatricomas in Kabuki syndrome.	Pediatr Dermatol. 30(2):253-5, 2013 Mar-Apr.
7	Takeuchi, Masaki.	形成外科	Internal mammary artery perforator flap for reconstruction of the chest wall.	J Plast Surg Hand Surg. 47(4):328-30, 2013
8	Hirosawa, Tomoichiro.	外科	Prognostic factors in patients undergoing complete resection of pulmonary metastases of	SURG. TODAY. 43(5):494-9, 2013 May.
9	Ogawa, Shimpei	外科	Lateral pelvic lymph node dissection can be omitted in lower rectal cancer in which the	J Surg Oncol. 109(3):227-33, 2014 Mar.
10	Seshimo, Akiyoshi.	外科	Clinical outcome of esophagogastrostomy after proximal gastrectomy for gastric cancer.	Hepatogastroenterology. 60(123):616-9, 2013 May.
11	Tani, Hideki.	外科	Clinical significance of keratinocyte growth factor and K-sam gene expression in gastric	Mol Med Report. 7(5):1381-6, 2013 May.
12	Yamane, Takao	外科	Analysis of the mRNA expression levels of thymidylate synthase (TS), dihydropyrimidine	Hepatogastroenterology. 60(122):291-5, 2013 Mar-
13	Sato, Yuko	血液浄化療法科	Corticosteroid therapy for duchenne muscular dystrophy: improvement of psychomotor	Pediatr Neurol. 50(1):31-7, 2014
14	Kimata, Naoki	血液浄化療法科	Patient selection and prescription of on-line HDF in Japan.	Blood Purif. 35 Suppl 1:77-80, 2013.
15	Kimata, Naoki.	血液浄化療法科	Study of discrepancies between recorded and actual blood flow in hemodialysis patients.	ASAIO J. 59(6):617-21, 2013 Nov-Dec
16	Mori, Naoki.	血液内科	L265P mutation of the MYD88 gene is frequent in Waldenstrom's macroglobulinemia and its	PLoS ONE. 8(11):e80088, 2013.
17	Tanabe, Akiyo.	高血圧・内分泌内科	Combination chemotherapy with cyclophosphamide, vincristine, and	Horm Cancer. 4(2):103-10, 2013 Apr.
18	Watanabe, Noriyoshi	高血圧・内分泌内科	Prediction of gestational diabetes mellitus by soluble (pro)renin receptor during the first	J Clin Endocrinol Metab. 98(6):2528-35, 2013 Jun.
19	Watanabe, Noriyoshi.	高血圧・内分泌内科	Association between soluble (Pro)renin receptor concentration in cord blood and small	PLoS ONE. 8(3):e60036, 2013.
20	Kanzaki, Masato.	呼吸器外科	Complete video-assisted thoracoscopic multi-subsegmentectomy based on patients' specific	Asian j. endosc. surg.. 6(2):110-5, 2013 May.
21	Kanzaki, Masato.	呼吸器外科	Controlled collagen crosslinking process in tissue-engineered fibroblast sheets for	J Tissue Eng Regen Med. 7(5):383-91, 2013 May
22	Matsuda, Yoshio	産婦人科	Prediction of fetal acidemia in placental abruption.	BMC Pregnancy Childbirth. 13:156, 2013.
23	Terada, Misato	産婦人科	Effects of maternal factors on birth weight in Japan.	J Pregnancy. 2013:172395, 2013
24	Mori, Yoshiki.	循環器小児科	Complications of cardiac catheterization in adults and children with congenital heart	Heart Vessels. 28(3):352-9, 2013 May.
25	Ejima, Koichiro	循環器内科	Localized reentrant tachycardia in the aorta contiguity region mimicking perimitral atrial	Heart Vessels. 28(4):546-9, 2013 Jul.
26	Fujita, Etsuko.	循環器内科	Mutations in the cardiac troponin T gene show various prognoses in Japanese patients with	Heart Vessels. 28(6):785-94, 2013 Nov

27	Hattori, Hidetoshi.	循環器内科	Differences in hemodynamic responses between intravenous carperitide and nicorandil	Heart Vessels. 28(3):345-51, 2013 May.
28	Koyanagi, Ryo.	循環器内科	Efficacy of the combination of amlodipine and candesartan in hypertensive patients with	J Cardiol. 62(4):217-23, 2013 Oct
29	Nagashima, Michitaka	循環器内科	Chronic kidney disease and long-term outcomes of myocardial infarction.	Int J Cardiol. 167(6):2490-5, 2013 Sep 10.
30	Nakajima, Takatomo.	循環器内科	Utility of ECG-gated MDCT to differentiate patients with ARVC/D from patients with	J Cardiovasc Comput Tomogr. 7(4):223-33, 2013
31	Shiga, Tsuyoshi.	循環器内科	Contributing factors to the apparent clearance of bepridil in patients with paroxysmal or	Ther Drug Monit. 35(3):367-73, 2013 Jun.
32	Suzuki, Atsushi.	循環器内科	Reversible cardiomyopathy after radiofrequency ablation of 30-year persistent	BMJ Case Rep. 2013, 2013.
33	Uchida, Takahiro	循環器内科	Global cardiovascular device innovation: Japan-USA synergies: Harmonization by Doing	Circ J. 77(7):1714-8, 2013.
34	Yagishita-Tagawa, Yoshimi.	循環器内科	Low-dose dobutamine induces left ventricular mechanical dyssynchrony in patients with	J Cardiol. 61(4):275-80, 2013 Apr.
35	Yagishita-Tagawa, Yoshimi.	循環器内科	Association between sleep apnea and overnight hemodynamic changes in	J Cardiol. 61(5):348-53, 2013 May.
36	Monzen, M.	消化器内科	Usefulness of cell block cytology for preoperative grading and typing of intraductal	Pancreatol. 13(4):369-78, 2013 Jul-Aug
37	Tokushige K.	消化器内科	Serum metabolomic profile and potential biomarkers for severity of fibrosis in	J Gastroenterol. 48(12):1392-400, 2013
38	Eto, Kaoru	小児科	Microdeletions of 3p21.31 characterized by developmental delay, distinctive features,	Am J Med Genet A. 161A(12):3049-56, 2013 Dec
39	Fujii, Akiko.	小児科	A long-term, clinical study on symptomatic infantile spasms with focal features	Brain Dev. 35(5):379-85, 2013 May.
40	Oguni, Hirokazu.	小児科	Clinical analysis of catastrophic epilepsy in infancy and early childhood: results of the Far-	Brain Dev. 35(8):786-92, 2013 Sep.
41	Shichiji, Minobu.	小児科	A cryptic microdeletion including MBD5 occurring within the breakpoint of a reciprocal	Am J Med Genet A. 161A(4):850-5, 2013 Apr.
42	Shimada, Shino.	小児科	Clinical manifestations of Xq28 functional disomy involving MECP2 in one female and	Am J Med Genet A. 161A(7):1779-85, 2013 Jul.
43	Ishigooka, Jun.	神経精神科	Japan useful medication program for schizophrenia (JUMPs)-long-term study on	BMC Psychiatry. 13:243, 2013.
44	Hoshino, Takao	神経内科	CHADS2 score predicts functional outcome of stroke in patients with a history of coronary	J Neurol Sci. 331(1-2):57-60, 2013 Aug 15
45	Hoshino, Takao	神経内科	Slow sinus heart rate as a potential predictive factor of paroxysmal atrial fibrillation in stroke	Cerebrovasc Dis. 36(2):120-5, 2013.
46	Hoshino, Takao.	神経内科	Cardioembolic stroke is frequent in late recurrence after transient ischemic attack.	J STROKE CEREBROVASC DIS. 22(6):822-7, 2013 Aug.
47	Hoshino, Takao.	神経内科	Clinical features and functional outcome of stroke after transient ischemic attack.	J STROKE CEREBROVASC DIS. 22(3):260-6, 2013 Apr.
48	Masuda, Yoko.	神経内科	Factors associated with the misdiagnosis of cerebellar infarction	J STROKE CEREBROVASC DIS. 22(7):1125-30, 2013
49	Nakamura, Tomomi	神経内科	Toxoplasmosis involving the rostral medulla oblongata bilaterally in a non-HIV patient.	Clin Neurol Neurosurg. 115(8):1561-3, 2013 Aug.
50	Shimizu, Yuko.	神経内科	Plasma osteopontin levels are associated with disease activity in the patients with multiple	J Neuroimmunol. 263(1-2):148-51, 2013 Oct 15.
51	Azuma, Takashi.	心臓血管外科	The next generation of fenestrated endografts: results of a clinical trial to support an expanded	Eur J Cardiothorac Surg. 44(2):e156-63; discussion
52	Isayama, Noriko	心臓血管外科	Comparison of vascular smooth muscle cells in canine great vessels.	BMC Vet Res. 9:54, 2013.
53	Komagamine, Masahide	心臓血管外科	Clinical outcomes of pediatric ventricular assist device implantation: a single-institute report	Int J Artif Organs. 36(12):887-91, 2013

54	Matsumura, Goki	心臓血管外科	Long-term results of cell-free biodegradable scaffolds for in situ tissue engineering of	Biomaterials. 34(27):6422-8, 2013 Sep
55	Naito, Yuji.	心臓血管外科	Long-term results of modified Fontan operation for single-ventricle patients associated with	Ann Thorac Surg. 96(1):211-8, 2013 Jul.
56	Sugimoto, Koichi	心臓血管外科	Assessment of cardiovascular function by combining clinical data with a computational	J Thorac Cardiovasc Surg. 145(5):1367-72, 2013 May.
57	Tomizawa, Yasuko	心臓血管外科	What are the qualifications and selection criteria for women to be appointed to society	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 62(2):131-2, 2014
58	Tomizawa, Yasuko.	心臓血管外科	Women in surgery: little change in gender equality in Japanese medical societies over the	SURG. TODAY. 43(10):1202-5, 2013 Oct.
59	Tsukui, Hiroyuki	心臓血管外科	Left ventricular aneurysm repair without ventriculotomy.	Heart Vessels. 28(3):401-3, 2013 May.
60	Hattori, Motoshi.	腎臓小児科	Darbepoetin alfa for the treatment of anemia in children undergoing peritoneal dialysis: a	Clin Exp Nephrol. 17(4):582-8, 2013 Aug
61	Imamura, Hideaki.	腎臓小児科	Successful living-related kidney transplantation in a boy with inherited dysfibrinogenemia.	PEDIATR TRANSPLANT. 17(7):E161-4, 2013 Nov
62	Amemiya, Nobuyuki	腎臓内科	Association between high-molecular-weight adiponectin and bone mineral density in	Clin Exp Nephrol. 17(3):411-5, 2013 Jun
63	Asamiya, Y	腎臓内科	Oxidised LDL/LDL-cholesterol ratio and coronary artery calcification in haemodialysis	Nutr Metab Cardiovasc Dis. 23(7):619-27, 2013 Jul.
64	Itabashi, Mitsuyo	腎臓内科	Long-term damage assessment in patients with microscopic polyangiitis and renal-limited	Mod Rheumatol. 24(1):112-9, 2014
65	Kohei, Junko	腎臓内科	Neutrophil gelatinase-associated lipocalin is a sensitive biomarker for the early diagnosis of	Int Urol Nephrol. 45(4):1159-67, 2013 Aug.
66	Moriyama, Takahito	腎臓内科	Effects of combination therapy with renin-angiotensin system inhibitors and	Intern Med. 52(2):193-9, 2013.
67	Nitta, Kosaku.	腎臓内科	Risk factors for increased left ventricular hypertrophy in patients with chronic kidney	Clin Exp Nephrol. 17(5):730-42, 2013 Oct.
68	Ochi, Ayami.	腎臓内科	Comparison between steroid pulse therapy alone and in combination with tonsillectomy for	Int Urol Nephrol. 45(2):469-76, 2013 Apr.
69	Saito, Takako	腎臓内科	Metabolic syndrome and risk of progression of chronic kidney disease: a single-center cohort	Heart Vessels. 28(3):323-9, 2013 May.
70	Sato, Masayo	腎臓内科	Stiffness parameter beta as a predictor of the 4-year all-cause mortality of chronic	Clin Exp Nephrol. 17(2):268-74, 2013 Apr.
71	Shimizu, Ari	腎臓内科	Clinical and pathological studies of IgA nephropathy presenting as a rapidly	Intern Med. 52(22):2489-94, 2013
72	Takei, Takashi	腎臓内科	Effect of single-dose rituximab on steroid-dependent minimal-change nephrotic	Nephrol Dial Transplant. 28(5):1225-32, 2013 May.
73	Yanagisawa, Naoki.	腎臓内科	Impact of cystatin C elevation and albuminuria on probability of adverse outcomes in HIV-	Clin Nephrol. 79(5):362-9, 2013 May.
74	Momohara, Shigeki.	整形外科	Analysis of perioperative clinical features and complications after orthopaedic surgery in	Mod Rheumatol. 23(3):440-9, 2013 May.
75	Yano, Koichiro	整形外科	Proximal rotational closing-wedge osteotomy of the first metatarsal in rheumatoid arthritis:	Mod Rheumatol. 23(5):953-8, 2013 Sep.
76	Sugisawa, Eri	糖尿病・代謝内科	Skin autofluorescence reflects integration of past long-term glycemic control in patients with	Diabetes Care. 36(8):2339-45, 2013 Aug.
77	Horiuchi, Kiyomi.	内分泌外科	Analysis of genotype-phenotype correlations and survival outcomes in patients with primary	SURG. TODAY. 43(8):894-9, 2013 Aug.
78	Amano, Kosaku.	脳神経外科	Clinicopathological features of sellar region xanthogranuloma: correlation with Rathke's	Brain Tumor Pathol. 30(4):233-41, 2013 Oct.
79	Chiba, Kentaro.	脳神経外科	Diagnostic and management difficulties in a case of multiple intracranial juvenile	Childs Nerv Syst. 29(6):1039-45, 2013 Jun
80	Goto, Shinichi.	脳神経外科	Spinal cord stimulation and intrathecal baclofen therapy: combined neuromodulation for	Stereotact Funct Neurosurg. 91(6):386-91, 2013

81	Hayashi, Motohiro.	脳神経外科	Asian Gamma Knife Academy: its goals and activities.	Acta Neurochir Suppl. 116:1-3, 2013.
82	Hayashi, Motohiro.	脳神経外科	Usefulness of the advanced neuroimaging protocol based on plain and gadolinium-	Acta Neurochir Suppl. 116:167-78, 2013.
83	Hayashi, Motohiro.	脳神経外科	Do we really still need an open surgery for treatment of patients with vestibular	Acta Neurochir Suppl. 116:25-36, 2013.
84	Hori, Tomokatsu.	脳神経外科	What is the role of radiosurgery in the management of sellar tumors?	Acta Neurochir Suppl. 116:45-8, 2013.
85	Hori, Tomokatsu.	脳神経外科	Whether gamma knife radiosurgery is really necessary for treatment of patients with	Acta Neurochir Suppl. 116:19-23, 2013.
86	Horisawa, Shiro	脳神経外科	Long-term improvement of musician's dystonia after stereotactic ventro-oral thalamotomy.	Ann Neurol. 74(5):648-54, 2013 Nov
87	Kasuya, Hidetoshi.	脳神経外科	Development of nicardipine prolonged-release implants after clipping for preventing cerebral	Acta Neurochir Suppl. 115:41-4, 2013
88	Kawashima, Akitsuqu	脳神経外科	Plastic reshaping of cortical language areas evaluated by navigated transcranial magnetic	Clin Neurol Neurosurg. 115(10):2226-9, 2013 Oct.
89	Morisawa, Hanako.	脳神経外科	Hemodynamics and changes after STA-MCA anastomosis in moyamoya disease and	Neurosurg Rev. 36(3):411-9, 2013 Jul.
90	Moteki, Yosuke	脳神経外科	Progressive visual field defect caused by an unruptured middle cerebral artery aneurysm.	Clin Neurol Neurosurg. 115(10):2182-5, 2013
91	Nitta, Masayuki.	脳神経外科	Updated therapeutic strategy for adult low-grade glioma stratified by resection and tumor	Neurol Med Chir (Tokyo). 53(7):447-54, 2013.
92	Taira, Takaomi	脳神経外科	Rate of complications among the recipients of intrathecal baclofen pump in Japan: a	Neuromodulation. 16(3):266-72; discussion
93	Yokote, Akiyoshi.	脳神経外科	Intraoperative pre- and post-craniofacial reconstruction intracranial pressure (ICP)	Childs Nerv Syst. 29(8):1363-7, 2013 Aug.
94	Iida, S.	泌尿器科	Transient lymphopenia breaks costimulatory blockade-based peripheral tolerance and	Am J Transplant. 13(9):2268-79, 2013 Sep
95	Ishida, Hideki	泌尿器科	Late-onset neutropenia (LON) after low-dose rituximab treatment in living related kidney	Transpl Immunol. 28(2-3):93-9, 2013 Mar.
96	Kohei, Naoki.	泌尿器科	Sequential analysis of donor-specific antibodies and pathological findings in acute antibody-	Kidney Int. 84(4):722-32, 2013 Oct
97	Kondo, Tsunenori.	泌尿器科	Negative impact of papillary histological subtype in patients with renal cell carcinoma	Int J Urol. 20(11):1072-7, 2013 Nov
98	Kondo, Tsunenori.	泌尿器科	Superior tolerability of altered dosing schedule of sunitinib with 2-weeks-on and 1-week-off in	Jpn J Clin Oncol. 44(3):270-7, 2014 Mar
99	Sato, Keitaro	泌尿器科	Risk factors for recurrence of immunoglobulin a nephropathy after renal transplantation: single	Therap Apher Dial. 17(2):213-20, 2013 Apr
100	Sato, Yasuyuki.	泌尿器科	Evaluation of tonsillectomy before kidney transplantation in patients with IgA	Transpl Immunol. 30(1):12-7, 2014
101	Takagi, Toshio	泌尿器科	Comparison of survival rates in patients with metastatic renal cell carcinoma according to	Jpn J Clin Oncol. 43(4):439-43, 2013 Apr.
102	Tschiya, Tomohiro.	泌尿器科	Comparison of pharmacokinetics and pathology for low-dose tacrolimus once-daily	Transplantation. 96(2):198-204, 2013 Jul 27.
103	Kawashima, Makoto.	皮膚科	Improvement of crow's feet lines by topical application of 1-carbamimidoyl-L-proline (CLP).	Eur J Dermatol. 23(2):195-201, 2013 Apr 1.
104	Namba, Mio.	皮膚科	Multiple basal cell carcinomas in an atomic bomb survivor.	Int J Dermatol. 52(5):605-7, 2013 May
105	Takenaka, Yuko.	皮膚科	Paracrine cytokine mechanisms underlying the hyperpigmentation of seborrheic keratosis in	J Dermatol. 40(7):533-42, 2013 Jul.
106	Kawanishi, Kunio	病理診断科	Neutral solution low in glucose degradation products is associated with less peritoneal	Perit Dial Int. 33(3):242-51, 2013 May-Jun.
107	Kanda, Eriko.	母子総合医療センター	Stomach herniation predicts fetal death or non-reassuring fetal status in gastroschisis at late	Prenat Diagn. 33(13):1302-4, 2013

108	Washio, Yosuke	母子総合医療センター	Hemodynamic analysis in infants with late-onset circulatory collapse	Pediatr Int. 55(5):582-8, 2013 Oct.
109	Kamata, Kotoe.	麻酔科	How to control propofol infusion in pediatric patients undergoing gamma knife radiosurgery.	Acta Neurochir Suppl. 116:147-50, 2013.
110	Furuya, T.	リウマチ科	Risk factors associated with the occurrence of hip fracture in Japanese patients with	Osteoporos Int. 24(4):1257-65, 2013 Apr.
111	Furuya, Takefumi	リウマチ科	Prevalence of and factors associated with vitamin D deficiency in 4,793 Japanese	Clin Rheumatol. 32(7):1081-7, 2013 Jul.
112	Gono, Takahisa.	リウマチ科	Discoveries in the pathophysiology of neuropsychiatric lupus erythematosus:	BMC Med. 11:91, 2013.
113	Hanaoka, Masanori	リウマチ科	Urinary free light chain is a potential biomarker for ISN/RPS class III/IV lupus nephritis.	Rheumatology (Oxford). 52(12):2149-57, 2013 Dec.
114	Hoshi, Daisuke	リウマチ科	Disability is the major negative predictor for achievement of Boolean-based remission in	Mod Rheumatol. 23(6):1205-10, 2013
115	Kawasumi, Hidenaga.	リウマチ科	Methemoglobinemia induced by trimethoprim-sulfamethoxazole in a patient with systemic	Intern Med. 52(15):1741-3, 2013.
116	Kitahama, Mariko	リウマチ科	Efficacy of adjunct tacrolimus treatment in patients with rheumatoid arthritis with	Mod Rheumatol. 23(4):788-93, 2013 Jul
117	Kobashigawa, T.	リウマチ科	Vaccination against seasonal influenza is effective in Japanese patients with rheumatoid	Scand J Rheumatol. 42(6):445-50, 2013.
118	Miyamae, Takako.	リウマチ科	Hemophagocytic lymphohistiocytosis developed in a Japanese boy with Chediak-	Nihon Rinsho Meneki Gakkai Kaishi. 36(4):226-32, 2013.
119	Nakajima, Ayako.	リウマチ科	No increased mortality in patients with rheumatoid arthritis treated with biologics:	Mod Rheumatol. 23(5):945-52, 2013 Sep.
120	Ochi, Kensuke	リウマチ科	Administration of teriparatide treatment for a challenging case of nonunion of periprosthetic	Arch Osteoporos. 8(1-2):159, 2013
121	Ochi, Kensuke.	リウマチ科	Sites, frequencies, and causes of self-reported fractures in 9,720 rheumatoid arthritis patients:	Arch Osteoporos. 8(1-2):130, 2013.
122	Ota, Yuko	リウマチ科	Ghrelin attenuates collagen production in lesional fibroblasts from patients with systemic	Clin Immunol. 147(2):71-8, 2013 May.
123	Suzuki, Taku	リウマチ科	PADI4 and HLA-DRB1 are genetic risks for radiographic progression in RA patients.	PLoS ONE. 8(4):e61045, 2013.
124	Tanaka, Eiichi	リウマチ科	Analysis of direct medical and nonmedical costs for care of rheumatoid arthritis patients	Mod Rheumatol. 23(4):742-51, 2013 Jul.
125	Urano, Wako.	リウマチ科	Effect of genetic polymorphisms on development of gout	J Rheumatol. 40(8):1374-8, 2013 Aug
126	Mineshima, Michio.	臨床工学科	Development of intermittent infusion hemodiafiltration using ultrapure dialysis fluid	Blood Purif. 35 Suppl 1:55-8, 2013.
127	Yamamoto, Ken-ichiro.	臨床工学科	In vitro study of removal of protein-bound toxins.	Blood Purif. 35 Suppl 1:51-4, 2013.

	発表者	発表者の所属	論題	雑誌名
1	三宅 邦智	外科	ヘルニア緊急手術におけるKugel法	日本腹部救急医学会雑誌 34巻1号 Page73-
2	宮前 多佳子	リウマチ科	Chediak-Higashi症候群の血球貪食性リンパ組 織球症としての臨床像	日本臨床免疫学会会誌 36 巻4号 Page226-
3	市川 奈緒美	リウマチ科	来院中止した痛風患者の臨床的特徴	痛風と核酸代謝 37巻1号 Page9-15(2013.07)
4	安田 耕平	リハビリテーション 部	人工股関節全置換術後の深部静脈血栓症の発生 部位と発生に影響を与える因子の検討	理学療法東京 1号 Page19- 24(2013.10)
5	浅畑 さやか	感染症科	HAART時代におけるエイズ患者の入院状況に 関する検討 身体的・社会的側面から	日本エイズ学会誌 15巻3号 Page194-198(2013.08)
6	大平 明彦	眼科	Ocular neuromyotoniaを呈したTolosa-Hunt症 候群の1例	臨床神経学 53巻5号 Page376-379(2013.05)
7	武田 宗和	救急医学	総頸動脈仮性動脈瘤に対するcovered stentによ る治療経験	日本救命医療学会雑誌 27 巻 Page19-24(2013.09)
8	武田 宗和	救急医学	経肛門的にウォッカを注入し発症した化学性 (アルコール性)直腸結腸炎の1例	日本腹部救急医学会雑誌 33巻4号 Page735-
9	秋葉 隆	血液浄化療法科	HIV感染者における透析医療の推進に関する研 究 拠点病院でのアンケート調査	日本透析医学会雑誌 46巻9 号 Page931-936(2013.09)
10	吉永 健太郎	血液内科	骨髄移植後に肺ムーコル症を発症したPh-ALL にLiposomal amphotericin B投与と肺切除を行 胸腺腫瘍を合併したCowden病の1例	The Japanese Journal of Antibiotics 66巻2号
11	吉川 拓磨	呼吸器外科		日本臨床外科学会雑誌 74 巻10号 Page2685-
12	吉川 拓磨	呼吸器外科	当科における自然気胸手術症例および術後再発 症例の検討	日本気胸・嚢胞性肺疾患学 会雑誌 13巻1号 Page7-
13	葭矢 健仁	呼吸器外科	シリコン製栓型気管支充填材(EWS)にて緊急止 血を行った気道出血の1例	日本臨床外科学会雑誌 74 巻9号 Page2417-
14	永田 怜子	産婦人科	腔腺癌の1例	東京産科婦人科学会会誌 63巻1号 Page159-
15	金野 潤	産婦人科	出生前に発見された胎児縦隔リンパ管腫に対す るMRIおよび超音波検査の有用性	関東連合産科婦人科学会誌 50巻4号 Page763-
16	駒形 依子	産婦人科	妊娠第一三半期に指摘された胎児仙尾部奇形腫 の1例	東京産科婦人科学会会誌 62巻2号 Page209-
17	高橋 伸子	産婦人科	大学病院婦人科外来における十全大補湯処方 57症例の解析	産婦人科漢方研究のあゆみ 30号 Page62-65(2013.04)
18	寺田 美里	産婦人科	婦人科癌再発による閉塞性黄疸に対して胆道ス テント留置術を施行した2例	東京産科婦人科学会会誌 62巻3号 Page415-
19	小平 賢介	産婦人科	ゲムシタピンとドセタキセル併用療法後に間質 性肺炎をきたした子宮平滑筋肉腫の1例	東京産科婦人科学会会誌 62巻2号 Page327-
20	杉浦 友美	産婦人科	絨毛性腫瘍の疑いで緊急子宮全摘術を施行した 侵入奇胎の1例	関東連合産科婦人科学会誌 50巻4号 Page607-
21	鈴木 宏美	産婦人科	羊水の糖濃度低値を示し出生後蘇生困難であっ た羊水過多症例の経験	日本周産期・新生児医学会 雑誌 49巻3号 Page1060-
22	松田 義雄	産婦人科	産科医療補償制度 原因分析委員会からの報告 出生時にlow pH、low Apgarではなかった脳性	周産期学シンポジウム 31 号 Page15-22(2013.09)
23	岡本 俊宏	歯科口腔外科	口唇悪性黒色腫切除後にインプラント義歯で咬 合再建を行った1例	Japanese Journal of Maxillo Facial Implants 12巻4号
24	熊坂 士	歯科口腔外科	頭頸部癌患者の口腔粘膜湿潤度と刺激唾液分泌 量の測定	日本口腔診断学会雑誌 26 巻3号 Page261-
25	高西 桂	歯科口腔外科	高血圧酸素療法が奏功した小児下顎骨骨髓炎の 1例	小児口腔外科 23巻3号 Page202-205(2013.12)
26	貝淵 信之	歯科口腔外科	口腔、頸部に発生した悪性リンパ腫の臨床的検 討 特にFDG-PETについて	日本口腔診断学会雑誌 26 巻3号 Page289-

27	岡 良和	耳鼻咽喉科	当科におけるHIV感染症・AIDS症例の臨床的検討	日本耳鼻咽喉科感染症研究会誌 31巻1号 Page149-
28	崎谷 恵理	耳鼻咽喉科	副耳下腺腫瘍の6症例	口腔・咽頭科 26巻2号 Page191-195(2013.06)
29	吉川 陽子	小児科	難治性の眼症状に対しtacrolimusの夕食前内服が有効であった潜在性全身型重症筋無力症の幼	脳と発達 45巻4号 Page318-322(2013.07)
30	吉川 陽子	小児科	経鼻胃管により胃穿孔を来した福山型先天性筋	日本重症心身障害学会誌 38巻1号 Page137-
31	石垣 景子	小児科	筋ジストロフィーの治療とケア 小児期に発症し診断に苦慮したカルパインパチーの一例	難病と在宅ケア 19巻1号 Page59-61(2013.04)
32	岡野 美々	消化器外科	分流術に先行してESWLによる膵石治療をした先天性胆道拡張症の1例	胆道 27巻4号 Page752-757(2013.10)
33	佐藤 拓也	消化器外科	食道切除術後再建結腸癌の1切除例	日本気管食道科学会会報 64巻6号 Page419-
34	椎原 正尋	消化器外科	胸腔鏡補助下憩室切除術を施行した中部食道牽引圧出性憩室の1例	日本臨床外科学会雑誌 75巻3号 Page662-
35	椎原 正尋	消化器外科	人工造腔後の内ヘルニアに対し腹腔鏡下で修復した1例	日本内視鏡外科学会雑誌 18巻6号 Page671-
36	伊藤 亜由美	消化器内科	短期間で異所性に再発した難治性虚血性大腸炎	Progress of Digestive Endoscopy 83巻1号
37	高山 敬子	消化器内科	重症急性膵炎における経腸栄養の有用性	消化と吸収 35巻3号 Page313-318(2013.07)
38	徳重 克年	消化器内科	アルコール性肝障害とNAFLDにおける肝内および肝外発癌の比較	アルコールと医学生物学32巻 Page30-34(2014.01)
39	柏木 宏幸	消化器内科	Histoacrylによる内視鏡的塞栓療法で治療し得た十二指腸静脈瘤出血の1例	Progress of Digestive Endoscopy 83巻1号
40	岩朝 静子	心臓血管外科	サラセミアを合併した僧帽弁閉鎖不全症の治療経験	心臓 45巻7号 Page806-810(2013.07)
41	飯嶋 睦	神経内科	パーキンソン病の眠気と網様系	日本薬物脳波学会雑誌 14巻1号 Page29-33(2013.07)
42	西山 慶	腎臓小児科	幼児期に腎移植を行い思春期の成長スパートとともに蛋白尿の出現・増悪を認めた2例	日本臨床腎移植学会雑誌 1巻1号 Page97-100(2013.07)
43	谷 諭美	腎臓小児科	リツキシマブ投与3年を経過して、末梢血B細胞0%が持続し、さらに好中球減少症を呈した	日本小児腎不全学会雑誌 33巻 Page99-101(2013.07)
44	服部 元史	腎臓小児科	本邦小児末期腎不全患者の疫学調査報告 とくに透析療法に関して	日本透析医学会雑誌 47巻2号 Page167-174(2014.02)
45	越田 善久	腎臓内科	血液透析患者における血清アディポネクチンと生命予後の関連	日本透析医学会雑誌 46巻5号 Page475-480(2013.05)
46	三宮 彰仁	腎臓内科	常染色体優性多発性嚢胞腎に対する腎移植時両側自己腎摘と非自己腎摘の比較検討およびCT	日本臨床腎移植学会雑誌 1巻2号 Page166-
47	星野 慈恵	腎臓内科	塩酸リトドリン投与により妊娠継続した透析妊婦1例における塩酸リトドリンの透析性の検討	日本透析医学会雑誌 46巻6号 Page545-549(2013.06)
48	生方 政光	腎臓内科	アフエレスと希少疾患 血漿交換を含めた加療により救命できた劇症型抗リン脂質抗体症候	日本アフエレス学会雑誌 33巻1号 Page53-
49	安井 謙二	整形外科	当科における関節鏡視下腱板修復術の治療成績	JOSKAS 39巻1号 Page24-25(2014.03)
50	安井 謙二	整形外科	関節破壊を伴う感染の掻爬後に良好なりモデリングを認めた1例	肩関節 37巻3号 Page1327-1329(2013.10)
51	安井 謙二	整形外科	肩関節疾患の治療 化膿性肩関節炎17肩の治療経過の検討	Bone Joint Nerve 3巻4号 Page739-745(2013.10)
52	高橋 直人	整形外科	Klippel-Feil症候群に伴う頭蓋頸椎移行部形態異常の1例	東日本整形災害外科学会雑誌 25巻4号 Page499-
53	山田 晃史	整形外科	頸部脊柱管形成術後に著しい舌腫脹を生じた1例	東日本整形災害外科学会雑誌 26巻1号 Page114-

54	宗像 裕太郎	整形外科	THA MIS Direct anterior approachで施行したSpongiosa metal II型cupとSL-Plus型stemの組	日本人工関節学会誌 43巻 Page453-454(2013.12)
55	宗像 裕太郎	整形外科	骨軟部悪性腫瘍切除に伴う近位大腿骨欠損に対してのModulus stemを用いた再建術の検討	Hip Joint 39巻 Page962-967(2013.08)
56	森田 裕司	整形外科	DVT エノキサパリンナトリウムとシロスタゾール併用の人工関節置換術に伴う深部静脈血	日本人工関節学会誌 43巻 Page191-192(2013.12)
57	森田 裕司	整形外科	大腿骨頭回転骨切り術に及ぼす大腿骨近位部形状の影響	Hip Joint 39巻 Page189-192(2013.08)
58	前田 和博	整形外科	上腕骨大結節骨折に対する関節鏡視下スーチャーブリッジ法による整復固定術の3症例	関東整形災害外科学会雑誌 44巻4号 Page123-
59	大鶴 任彦	整形外科	第三世代metal-on-metal THA症例における血清中金属イオン濃度とコンポーネント設置角度、	Hip Joint 39巻 Page772-776(2013.08)
60	古城 慶子	精神医学	神経症の精神病理学に対するKlages,L.の寄与生の哲学からみた神経症の人間学	福岡行動医学雑誌20巻1号 Page89-96(2014.03)
61	磯田 典子	中央検査部	免疫学的便潜血検査における薬剤の影響 エグジェイド・フェロミアについて	医療と検査機器・試薬 36巻3号 Page377-
62	後藤 亜江子	中央検査部	都市部汚水曝露が原因となったAeromonas hydrophilaによる皮膚軟部組織感染症の1例	日本臨床微生物学雑誌 23巻2号 Page102-
63	千葉 恵理加	中央検査部内視鏡室	上部消化管内視鏡検査時のスコープ噛まれ事例について	関東消化器内視鏡技師会誌 20巻 Page29-31(2013.09)
64	高井 孝典	糖尿病センター 内科	左足部の広範囲壊死性筋膜炎に4週間を超えた陰圧閉鎖療法が奏功し分層植皮術を施行できた	糖尿病 56巻4号 Page235-239(2013.04)
65	尾形 真規子	糖尿病センター 内科	閉経後2型糖尿病女性における骨粗鬆症発症の臨床的因子の解明	Osteoporosis Japan 21巻3号 Page550-553(2013.07)
66	廣瀬 晶	糖尿病眼科	糖尿病網膜症に対する光凝固法の日欧間の差	日本糖尿病眼学会誌 18巻 Page35-39(2014.03)
67	名取 恵子	内分泌外科	予防的甲状腺全摘術を行った多発性内分泌腫瘍症(MEN)2Aの1例	日本甲状腺学会雑誌 4巻1号 Page60-61(2013.05)
68	天野 耕作	脳神経外科	ハイビジョン内視鏡を用いた経鼻手術の現状と未来	日本内分泌学会雑誌 89巻 Suppl.HPT Page7-
69	小内 友紀子	泌尿器科	TVTスリング術前のビデオウロダイナミクススタディにおける意義	日本女性骨盤底医学会誌10巻1号 Page55-57(2013.12)
70	清水 朋一	泌尿器科	腎移植後の移植尿管結石に対する結石破砕術の経験	日本臨床腎移植学会雑誌 1巻1号 Page61-68(2013.07)
71	八木澤 隆史	泌尿器科	腹腔鏡下手術にて摘除し得た後腹膜神経節細胞腫の1例	Japanese Journal of Endourology 26巻1号
72	齋藤 直	泌尿器科	難治性胸水より診断された生体腎移植後肺結核の1例	日本臨床腎移植学会雑誌 1巻2号 Page214-
73	川島 眞	皮膚科	慢性蕁麻疹における標準治療不応例に対するベポタスチンベシル酸塩増量の有用性の検討	臨床医薬 29巻12号 Page1057-1070(2013.12)
74	川島 眞	皮膚科	尋常性ざ瘡治療ガイドラインに沿ったアダバレンと抗菌薬の併用療法とアダバレンによる寛解	臨床医薬 29巻11号 Page951-960(2013.11)
75	川島 眞	皮膚科	分子標的薬による癌治療に随伴する皮膚障害の診療実態と課題 皮膚科医を対象としたイン	日本皮膚科学会雑誌 123巻 8号 Page1527-
76	葉山 愛弥	皮膚科	Trichophyton mentagrophytesによる小児のケルスス禿瘡の1例	日本小児皮膚科学会雑誌 33巻1号 Page75-
77	葉山 愛弥	皮膚科	抗MDA5抗体(抗CADM-140抗体)陽性例にみられた一過性の皮膚筋炎症状	日本皮膚科学会雑誌 123巻 11号 Page2079-
78	中島 範宏	病院管理学	大学病院における転倒転落事故の状況と外傷発生の影響要因 報告されたインシデントレポー	安全医学 9巻1号 Page15-23(2013.11)
79	三谷 穰	母子総合医療センター	常位胎盤早期剥離の臨床的諸問題の解決に向けて 児の予後から見た常位胎盤早期剥離の臨床	日本周産期・新生児医学会雑誌 49巻1号 Page68-
80	柴田 直昭	母子総合医療センター	糖尿病母体児における低血糖時のインスリン、遊離脂肪酸、ケトン体の検討	日本周産期・新生児医学会雑誌 49巻3号 Page969-



81	杉浦 友美	母子総合医療センター	胎児頭蓋内出血を認めたITP合併妊娠の1例	日本産婦人科・新生児血液学会誌 23巻1号 Page34-
82	内山 温	母子総合医療センター	糖尿病母体より出生した極低出生体重児の臨床像と修正1歳6カ月時の予後	糖尿病と妊娠 13巻1号 Page84-87(2013.08)
83	楠田 聡	母子総合医療センター	新生児関連疾患がわが国の幼児死亡に与える影響	日本小児科学会雑誌 117巻8号 Page1267-
84	楠田 聡	母子総合医療センター	NICU長期入院児の動態調査	日本小児科学会雑誌 117巻7号 Page1103-
85	小林 真之	麻酔科	心不全徴候のあるSenning術後患者の帝王切開術の1例	分娩と麻酔 95号 Page25-30(2013.11)
86	湯本 充規子	麻酔科	BO血液型不適合生体腎移植術中に用いた新鮮凍結血漿製剤で輸血副作用を呈した1症例	日本透析医学会雑誌 46巻4号 Page435-441(2013.04)
87	梁木 理史	麻酔科	難治性の糖尿病治療後末梢神経疼痛2症例に対し、クロミプラミンが有効であった臨床経験	麻酔 62巻12号 Page1400-1405(2013.12)
88	岡本 好雄	輸血・細胞プロセッシング部	腹水濾過濃縮再静注法(CART)の安全性確立に向けて	日本輸血細胞治療学会誌 59巻3号 Page470-
89	菅原 智子	臨床工学	臨床と実験系における透析用留置針の脱血限界流量の検討と脱血圧モニタリングの重要性	日本血液浄化技術学会会誌 21巻3号 Page320-
90	平川 晋也	臨床工学	APS-25EAとPES-25Sαの高流量条件における溶質除去性能の比較	日本血液浄化技術学会会誌 21巻3号 Page324-
91	岡島 友樹	臨床工学部	個人用透析装置原液接続ポートを原液集中配管と原液タンク両方へより清浄度を高く接続する	日本血液浄化技術学会会誌 21巻2号 Page236-
92	金野 好恵	臨床工学部	当院透析室における感染対策の取り組み 感染対策標識(POP)運用の検討	日本血液浄化技術学会会誌 21巻2号 Page211-

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 【手順書の名称】 倫理委員会標準業務手順書 病院倫理委員会標準業務手順書 【手順書の構成】 1) 目的と適用範囲 2) 委員会の責務 3) 委員会の設置と構成 4) 委員会の運営 5) 迅速審査 6) 事務局の業務 7) 記録の保存	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 【規程の名称】 研究活動に係る利益相反マネジメント規程 【規程の構成】 第1条に公共の利益（被験者の福利）を最優先することを掲げ、第2条に本規程で扱う用語を定義している。第3条以降については『研究活動に係る利益相反マネジメント委員会』の設置、運	

営等についての詳細を規定している。以下、各条の条名を記載。

第1条（目的）、第2条（定義）、第3条（委員会の設置）、第4条（委員会の審議事項）、第5条（委員会の組織）、第6条（委員長および副委員長）、第7条（委員会の議事）、第8条（委員以外の者の出席）、第9条（委員等の義務）、第10条（会務）、第11条（利益相反のマネジメント）、第12条（利益相反自己申告書等の保存）、第13条（学外への情報公開）、第14条（雑則）

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況

年 1 回

平成26年6月30日開催

（注）「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

### (3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況

年 5 回

・研修の主な内容

1) 研究倫理の基本的考え方 2) 研究開始後の実践で必要な配慮 3) ヒト試料研究とバイオバンクの倫理 4) インフォームド・コンセント 5) 小児臨床試験の特性、小児への倫理的配慮 6) 臨床試験の倫理 7) 臨床研究とは？ 臨床研究の倫理とは？ 8) 介入研究と観察研究 9) ICH-GCP基準について 10) 先進医療研究の立案、新規申請から終了まで

（注）「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

東京女子医科大学病院ではより優れた臨床医を育成するための後期臨床研修プログラムとして本学独自の医療練士研修制度を運営している。

医療練士研修制度はカリキュラムに従った5年間の後期研修プログラムであり、広く一般的診療能力を有した専門領域の医療練士および専門医を育成することを目標としている。

大きな特徴は高度先進医療を担う診療科が揃っており、充実した診療科と優秀な指導医による研修システムが可能なことである。また、各診療科の専攻により、専門領域の研修および専門医を取得することが可能であり、他診療科へのローテーションもフレキシブルに行うことができる。

研修は、医師としての基本事項（医療倫理、医療安全、医療に関する法律、医療経済など）に関する医療練士研修生統合カリキュラム、領域別（内科、外科、がん領域）カリキュラム、診療科別カリキュラムの3系統のカリキュラムに従って行われている。

2 研修の実績

研修医の人数	333人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
別紙③参照			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

## 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
玉置 淳	呼吸器内科	主任教授	36	
市原 淳弘	高血圧・内分泌内科	主任教授	28	
新田 孝作	腎臓内科	主任教授	32	
内潟 安子	糖尿病・代謝内科	主任教授	37	
萩原 誠久	循環器内科	主任教授	33	
立元 敬子	消化器内科	主任教授	40	
北川 一夫	神経内科	主任教授	31	
田中 淳司	血液内科	主任教授	32	
石郷岡 純	神経精神科	主任教授	38	
永田 智	小児科	主任教授	27	
中西 敏雄	循環器小児科	教授	40	
楠田 聡	小児科(新生児)(母子総合医療センター)	教授	36	
服部 元史	腎臓小児科	教授	30	
前林 勝也	放射線腫瘍科	講師	21	
坂井 修二	画像診断・核医学科	主任教授	27	
川島 眞	皮膚科	主任教授	36	
大貫 恭正	呼吸器外科	主任教授	39	
亀岡 信悟	外科	主任教授	40	
岡本 高宏	内分泌外科	教授	32	
山崎 健二	心臓血管外科	主任教授	29	
山本 雅一	消化器外科	主任教授	33	
淵之上 昌平	腎臓外科	准教授	35	
矢口 有乃	救急科(救命救急センター)	准教授	23	
岡田 芳和	脳神経外科	主任教授	40	
櫻井 裕之	形成外科	主任教授	28	
加藤 義治	整形外科	主任教授	36	
松井 英雄	産婦人科	主任教授	34	
吉原 俊雄	耳鼻咽喉科	主任教授	36	
飯田 知弘	眼科	主任教授	29	
北野 滋彦	糖尿病眼科	教授	32	
田邊 一成	泌尿器科	主任教授	32	
林 和彦	化学療法・緩和ケア科	教授	28	
尾崎 眞	麻酔科	主任教授	33	
山中 寿	リウマチ科	教授	34	
秋葉 隆	血液浄化療法科	教授	39	
安藤 智博	歯科口腔外科	主任教授	34	
齋藤 登	総合診療科	准教授	28	
長嶋 洋治	病理診断科	教授	29	
猪飼 哲夫	リハビリテーション科	教授	34	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
別紙④参照
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
別紙④参照
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

## ①医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

	研修の主な内容	研修の期間・実施回数	研修の参加人数
1	基本的な呼吸管理の知識と技術の理解(呼吸管理Ⅰ)	平成26年11月14日～平成27年1月28日	87名
2	呼吸不全全般に対する呼吸管理の知識と技術の理解(呼吸管理Ⅱ)	平成26年11月14日～平成27年1月28日	49名
3	がん薬物療法を中心とした研究会(がん医療薬学研究会)	平成25年5月10日～平成26年1月10日	291名
4	細胞加工施設における試験薬製造と品質管理	2ヶ月間・29回	1名
5			

## ②業務の管理に関する研修の実施状況

	研修の主な内容	研修の期間・実施回数	研修の参加人数
1	試験薬の製造および品質管理業務	2ヶ月間・29回	1名
2			

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 永井 厚志
管理担当者氏名	医療記録管理室長 村杉 雅秀 事務長 山口 秀宣

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医療記録管理室 医局 担当部署	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来、入院カルテ共に電子カルテで管理。診療上、必要な書類に関しては、スキャンして電子カルテに取り込んでいる。</li> <li>・電子カルテ導入以前の紙カルテは、外来・入院共に医療記録管理室で管理（平成17年11月以前の入院カルテに関しては医局で管理）</li> <li>・その他の書類は、担当部署で保管管理。</li> </ul>
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	業務管理課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当部署によるファイル、コンピューター等による保管管理。</li> </ul>
	高度の医療の提供の実績	業務管理課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	業務管理課	
	高度の医療の研修の実績	業務管理課	
	閲覧実績	業務管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	社会支援部	
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	業務管理課 薬剤部		
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項の各号及び第九の二十の第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当部署によるファイル、コンピューター等による保管管理。</li> </ul>
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全対策室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	感染対策部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全対策室	



		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則 第一 条の 十一 第一 項各 号及 び第 九条 の二 十三 第一 項第 一号 に掲 げる 体制 の確 保の 状況	院内感染のための指針の策定状況	感染対策部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部 中央検査部 中央放射線部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部 中央検査部 中央放射線部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部 中央検査部 中央放射線部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部 中央検査部 中央放射線部		

・担当部署によるファイル、コンピューター等による保管管理。

・診療録の病院外に持ち出す際の取扱い

⇒診療個人情報の院外持ち出しは原則禁止であるが、学会等で使用するためにやむを得ずデータを持ち出す場合は、診療個人情報責任者の承諾を得る。その際には、データに対して暗号化もしくはアクセスパスワードを設定する。  
(診療に関する個人情報の保護規定運用本院細則より)

⇒警察が捜査等で使用する場合は、捜査関係事項照会書と担当警察官の名刺を受取った上で、押収品目録で診療録等を双方で確認した上で貸し出しを実施。

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	業務管理課 課長	今井 克彰	
閲覧担当者氏名	業務管理課 係長	青田 憲一	
閲覧の求めに応じる場所	会議室等		
閲覧の手続の概要			
業務管理課に案内した上で担当者が会議室で対応する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 1 件
	地方公共団体	延 1 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 医療安全管理に関する基本方針 医療安全管理に関する委員会並びに組織に関する基本方針 医療安全管理のための研修に関する基本方針 事故報告等の医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 事故等発生時の対応に関する基本方針 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年11回
・ 活動の主な内容： 重大事例の共有および原因分析と再発防止策についての検討 医療機器の安全使用についての検討 医薬品の安全使用についての検討	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年49回
・ 研修の主な内容： 新入職員職種別研修（6回） 中堅職員職種別研修（1回） 全職員対象：患者・職員の安全確保を目指した当院の活動について 輸血療法における安全管理、医薬品の安全管理、医療機器の安全管理 等 (7回/年) 帰局者および中途採用者対象：医療安全、医薬品、医療機器についての基本とルール (23回/年) 帰局者および中途採用者対象：電子カルテについての基本とルール（12回/年）	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 麻薬金庫、規制医薬品管理庫の鍵の適正管理について 医療機器導入時の保守契約について 医療用二酸化炭素ポンプの安全対策について 安全に造影検査を実施するために 等	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（1名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（8名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員：専任（5）名 兼任（10）名 ・ 活動の主な内容： 院内報告書を起点に原因究明や再発防止等の改善活動 医療安全にかかわる啓蒙活動および職員研修の実施	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none"><li>指針の主な内容： 感染対策に関する基本理念 感染対策の組織と体制 職員研修のための方向性 感染発生状況報告の概要 感染発生時の対応</li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11 回
<ul style="list-style-type: none"><li>活動の主な内容： 耐性菌や感染症発生状況の報告と共有 抗菌薬使用状況と届出状況の報告と共有 職員研修の企画と実施後評価 針刺し等職業感染防止対応の報告と共有 感染防止技術推進に関する検討 マニュアル類の改訂</li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回以上
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容： 入職時研修（全職種、中途採用含む）— 感染対策基本講習と実習 感染リンクドクター、ナース — 最新情報確認 症例検討など 全病院職員 — 感染対策推進のための知識・情報・技術の学習 業務委託作業員、病院ボランティア— 手指衛生実習 個人防護具着脱実習 血液体液処理手順実習 隔離予防策の終点学習</li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>病院における発生状況の報告等の整備 ( ☑・無 )</li><li>その他の改善のための方策の主な内容： 手指衛生推進月間設定と遵守率や擦式消毒薬使用量追跡による評価 定期・不定期の院内ラウンドとそのフィードバック、および改善確認ラウンド 隔離予防策カードの掲示による対策の徹底 ICU系統におけるデバイス関連サーベイランスの実施 吸引、おむつ交換等ハイリスクケアの手順やツール作成と評価</li></ul>	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	㊦・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>医薬品副作用被害救済制度</li><li>当院における“禁忌薬”の使用について</li></ul></li></ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>手順書の作成 ( ㊦・無 )</li><li>業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>医薬品安全管理評価チェック表に基づき、業務の遂行状況を各部門リスクマネージャーが確認し、医医療安全対策室に報告する</li><li>麻薬および医薬品適正管理指導のための病棟ラウンドを実施する</li><li>薬事法 48 条に準じた薬品表示の徹底</li></ul></li></ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医薬品に係る情報の収集の整備 ( ㊦・無 )</li><li>その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>日本医療機能評価機構の医療安全情報および医薬品医療機器総合機構からの医療安全情報、医薬品適正使用のお願いを薬剤部ホームページに掲載、ドラックインフォメーションを作成し、情報伝達し注意を促す</li><li>インシデント・アクシデント報告の中から医薬品の適正使用・管理に関するものを抽出し、必要に応じてリスクマネージャー委員会等で検討し、医療安全管理情報にて職員に周知する</li><li>内服薬および注射薬の処方オーダに関するシステム改善を随時行い、安全かつ効率的な業務を行う</li><li>ハイリスク薬に関する情報提供およびモニタリングを行い、医薬品の適正使用を管理する</li><li>TDM 対象薬については、投与初期の段階から適正投与量、採決ポイントに関する情報を医師に提供し、血中濃度モニタリングを行い、安全な薬物療法に取り組んでいる</li><li>医薬品安全管理委員会で検討した事項を医療安全管理委員会に上申し、院内周知を図る</li></ul></li></ul>	

(様式第 6)

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 血液ガス分析装置の使用研修（講習・実習） 研修医全員を対象に毎年4月に実習を実施（今年度対象；41名） 業務担当者に対するトレーニングを実施</li> <li>・ 新規機器導入による施行者研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>①血液ガス分析装置（RP500、RL1265、ABL90FLEX）</li> <li>②全自動尿分析装置（US-3100R Plus）</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画の策定 ( (有)・無 )</li> <li>・ 保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内視鏡関連機器 ; 年間保守契約を締結</li> <li>・ 血液ガス分析装置 ; 年間保守契約を締結</li> <li>・ 生理検査機器全般 ; 始業点検を毎日行い記録・報告</li> <li>・ 検体検査機器全般 ; 年間保守契約を締結、始業点検を毎日行い記録・報告</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( (有)・無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 稼働及び保守、メンテナンス、修理状況を診療支援担当副院長および医療安全対策室へ毎日報告している。</li> <li>・ 精度管理委員会を開催し、稼働・稼働・保守・メンテナンス・修理状況を報告している。</li> </ul> </li> </ul>	

(様式第 6)

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	㊦・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>①放射線治療装置の構造と緊急時の措置  ②放射線治療における重要事項及び変更事項等の照射業務手順の確認  ③新しい放射線関連装置の導入時の研修</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 ( ㊦・無 )</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>①放射線出力、照射野について確認  ②各種の動作について確認  ③劣化部品等の交換</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ㊦・無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>①医療機器に係る改善や新たな使用上の変更等がある場合はその都度メーカーから情報を収集。  ②放射線機器を使用する職員への機器安全使用と放射線防護についての安全管理教育講習</p>	

(様式第 6)

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無		
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	1年 95回		
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容：別紙参照</li> </ul>			
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>計画の策定 (有)・無 )</li> <li>保守点検の主な内容：</li> </ul>			
期間：平成 25 年 4 月～平成 26 年 8 月			
	定期点検		
機種	周期	実施回数	対象台数
人工心肺装置	1年	8	4
補助循環装置	6ヶ月	32	15
血液浄化装置	6ヶ月	213	83
人工呼吸器	1年	87	86
除細動器	6ヶ月	161	58
閉鎖式保育器	1年	19	18
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器に係る情報の収集の整備 (有)・無 )</li> <li>その他の改善のための方策の主な内容：</li> <li>医療機器に係わる安全情報の一元管理： ME 機器管理室が安全情報を集約し、各部署のリスクマネージャーに配信</li> <li>ME ニュースの発行 毎月1日発行 内容：医療機器安全管理情報他</li> <li>臨床工学部による人工呼吸器使用病棟のラウンド 対象病棟：臨床工学技士の配属のない一般病棟 実施日時：月曜日～金曜日の日勤帯、1日1回</li> <li>臨床工学部によるME機器院内ラウンド： 院内で使用しているME機器の使用状況を把握し、安全に使用するための操作、管理方法の指導 対象病棟：臨床工学技士の配属のない一般病棟 対象機器：バッグバルブマスク、酸素ボンベ、心電図モニタ、低圧持続吸引器、除細動器他 実施日時：不定期</li> </ul>			



(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	④・無
公益財団法人日本医療機能評価機構 審査日：2013年2月27日 認定第JC1916号	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	④・無
ホームページ (クリニカルインディケーター・先進的医療の取組み等)、地域医療機関向けの医療連携ニュース、大学広報誌『Sincere (シンシア)』及びからだ情報館 (患者図書室：1日平均120名利用) により、情報発信を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	④・無
小児の先天性心疾患の場合、循環器小児科を受診した上で、手術の適応となった際は、周術期は心臓血管外科が担当し、容体が安定した後のケアに関しては循環器小児科で行っている。このような場合は、各診療科にそれぞれ主治医を置いて対応している。その他の診療科においても必要に応じコンサルテーションを実施しており密な連携を行っている。	

(様式第 8)

平成 26 年 10 月 2 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 東京女子医科大学  
理事長 吉岡 俊正

東京女子医科大学病院の紹介率及び逆紹介率の向上に関する年次計画について

標記について、医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 20 第 6 号口及び第 7 号口の規定に基づき、次のとおり提出します。

記

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日	
紹介率	51.1%	逆紹介率	38.6%
算出根拠	A：紹介患者の数		21,584人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		17,637人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1,766人
	D：初診の患者の数		45,641人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

2 紹介率及び逆紹介率向上のための基本方針と向上のための具体的な予定措置

逆紹介率の向上に向けて現在、下記の取り組みを実施しております。

- ①2011年、43の診療科の医師を中心とした「医療連携推進委員会」を設立し、緊急入院の受け入れや返書率の改善、紹介率・逆紹介率向上のためのプロジェクト活動を開始いたしました。
- ②逆紹介率の向上に向けて具体的な取り組みとして「ふたり主治医制」のリーフレットを作成し、外来患者、入院患者に対する病状説明の際に各診療科で活用しています。
- ③毎月の紹介率・逆紹介率の結果は、医療連携推進委員会で共有し、更なる改善に向けた対策の検討を行っています。
- ④毎月の病院運営会議及び実務者会議にて診療科別の結果を報告し、各診療科に逆紹介率の向上を推進しています。

これらの取り組みの結果、平成25年12月より逆紹介率は40%以上を維持し平成26年度は、4月:44.2%、5月:49.1%、6月:55.4%、7月:50.8%、8月:50.5%と推移しています。これに伴い本年度は、この数値を維持することを方針といたします。

(注)「紹介率」又は「逆紹介率」のうち、承認要件を満たしていないものについてのみ記載すること。

### 3 年次計画

#### (1) 紹介率

計画期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	
年次目標紹介率	第1年度 (平成 年度)	・ %
	第2年度 (平成 年度)	・ %
	第3年度 (平成 年度)	・ %
	第4年度 (平成 年度)	・ %
	第5年度 (平成 年度)	・ %

(注) 「紹介率」が、承認基準を満たしていない場合についてのみ記載すること。

#### (2) 逆紹介率

計画期間	平成 26年 4月 1日 ~ 平成 27年 3月 31日	
年次目標紹介率	第1年度 (平成 26年度)	・ 50.0 %
	第2年度 (平成 年度)	・ %
	第3年度 (平成 年度)	・ %
	第4年度 (平成 年度)	・ %
	第5年度 (平成 年度)	・ %

(注) 逆紹介率が、承認要件を満たしていない場合についてのみ記載すること。